

クロスロード

3

特集

語学講師、VC、OVの知識と経験を集めました

活動言語を 身につける





子どもたちに
伝えたいSDGs
世界の学校

小学2年生の子どもたちに、かけ算の授業を行ったときの様子。「教材の代わりにプラスチックの皿と小石を使い、『2×4』などを表しました。身近なものを活用し、わかりやすい授業ができたのではと思います」(陳さん)

小学校のお昼休みはたっぷり3時間。 おしゃべりや昼寝をしてのんびり過ごします

陳 崇義さん(ブルキナファソ/小学校教育/2017年度3次隊・埼玉県出身)

西アフリカの内陸国、ブルキナファソの公立小学校で算数の授業支援をしました。教科書を買えない子どもも多く、ノート代わりに使うのは学校から支給される小さな黒板でした。公用語はフランス語ですが日常的には現地のモレ語を使い、1・2年生だとフランス語を流ちょうに話せる子は少数です。

学校があるのは月々金曜で、授業は朝7時半に始まり、昼休みが12時から3時間もあります。毎年2月、各小学校に米・小麦などの食料が配布される時期は、学校給食が実施されます。金銭的余裕がない家庭の子にも勉強に集中してもらうためです。でも、食料がなくなれば給食も終わり。以降は、一日家に帰って昼食を食べる子も、お弁当を持ってくる子もいました。暑い日は気温が40℃にもなるため、昼休みは子どもたちと日陰でおしゃべりや昼寝をして、午後の授業に備えました。

夏休みは6月後半から約3カ月もありますが、子どもたちは遊んでいるわけではなく、農作業の手伝いに駆り出されます。10月には新学期が始まります。2・4・6年時に進級試験があり、試験に受からないと進級できないので、14歳の4年生や17歳の6年生もいましたが、仲が良く、その子の学びのレベルに合わせて学年が上がるのもいいのではないかと思います。

ブルキナファソで印象的だったのが挨拶を大切にしている文化です。先生たちとは「こんにちは」のあとに「家族は元気?」「仕事はどう?」などと尋ね合うのが普通でした。これは電話でも同様で、仕事の用事でも「最近元気?」などと話してから「実は…」と本題に入ります。和みますし、急いでいても冷静になれます。現地の人々の寛大さには何度も助けられました。

クロスロード

2022 MAR

Contents



表紙によせて

キルギスの首都・ビシュケクから車で約5時間半、標高約2000mの高地にあるナリン市の生活組合で、収入向上計画の手伝いをしました。写真は羊毛の靴下や手袋を作っていた組合員の女性と息子さんです。彼女は私のつたないキルギス語にも熱心に耳を傾け、活動のきっかけを作ってくれました。任期終了に合わせて食事会を開いてくれた際に、一面に咲いていた菜の花畑で撮影したこの写真を見ると、いつも温かい気持ちになります。中村寛さん(キルギス/村落開発普及員/2013年度1次隊・鳥取県出身)

- 2 子どもたちに伝えたいSDGs ―世界の学校
- 3 ■Contents ■索引
- 4 JICA Volunteers' Reports
- 特集
- 5 語学講師、VC、OVの知識と経験を集めました
活動言語を身につける
- 14 派遣国の横顔 ブラジル
～知っていますか?派遣地域の歴史とこれから
- 20 専門家に聞きました!
失敗に学ぶ ～現地で役立つ人間関係のコツ
- 22 **この職種の先輩隊員に注目!** ～現場で見つけた仕事図鑑
- 24 あって良かったモノ
- 25 あの日、地球の、あの場所で。
- 26 **先輩隊員のシューカツ記**
- 28 **派遣から始まる未来**
進学、非営利団体入職や起業の道を選んだ先輩隊員
- 30 待ってます、あなたを! ～各界からのエール
- 31 ウチのこだわり ―OB・OGショップ 国内編
- 32 JICA海外協力隊派遣現況
- 33 INFORMATION ～JICA青年海外協力隊事務局からのお知らせ～
- 34 **隊員めし** 現地で作った日本食、日本で作る現地めし
- 36 ウチのこだわり ―OB・OGショップ 海外編

■国別索引	掲載ページ
エチオピア	25
カンボジア	11
キルギス	1、31
コスタリカ	10
シリア	36
タイ	21
タンザニア	4
トルコ	11
ネパール	11
パナマ	23
パプアニューギニア	13、24
パラグアイ	13、22
ブラジル	16、17、18、19
ブルキナファソ	2、12
ホンジュラス	7、26
マダガスカル	28
マラウイ	13、34
ヨルダン	8

■職種別索引	掲載ページ
村落開発普及員	1、31
コンピュータ技術	13、21
農畜産物加工	7
農産物加工	11
食品検査	11
家畜飼育	13、31
青少年活動	17、28
野球	10
PCインストラクター	24
理数科教師	4
理科教育	25
小学校教育	2
小学校教諭	12
考古学	36
企画・編集・広報	16
手工芸	8
文化	22、36
和太鼓指導	19
保健師	23
公衆衛生	11
栄養士	34
感染症・エイズ対策	26
高齢者介護	18

■出身都道府県別索引	掲載ページ
宮城県	17
福島県	24
茨城県	23
埼玉県	2
千葉県	8
東京都	7、10
神奈川県	13、18、28
滋賀県	25
京都府	16、26、36
大阪府	11、21、22
兵庫県	31
奈良県	31
鳥取県	1
広島県	13
徳島県	34
福岡県	12
長崎県	4
宮崎県	19

【凡例】

JICA海外協力隊の隊員(経験者を含む)については、次のように表記しています。

国際協力さん(ケニア/環境教育/2019年度1次隊)

氏名	派遣国	職種	隊次
----	-----	----	----

「JICA海外協力隊」には「青年海外協力隊」「海外協力隊」「シニア海外協力隊」「日系社会青年海外協力隊」「日系社会海外協力隊」「日系社会シニア海外協力隊」があります。

『クロスロード』(通常号)は、JICA海外協力隊が活動・生活を円滑に行うための実践的な情報、および帰国後の進路開拓や社会還元をする際の情報を提供する雑誌で、年に10回発行しています。

編集・発行:
独立行政法人国際協力機構 青年海外協力隊事務局

JICA Volunteers' Reports

派遣先での協力隊員の活動や、OVの活動をリアルにレポート

from Japan

「途上国経験を教育の場で活かす」をテーマにシンポジウム開催

よしおか やすひろ

吉岡康裕さん(タンザニア/理数科教師/2000年度2次隊・長崎県出身/全国OV教員・教育研究会代表)



「全国OV教員・教育研究会」(以下、研究会)は、2021年12月26日、「第5回 全国OV教員・教育シンポジウム『協力隊を日本の文化にする』途上国経験を通して得られる力の活かし方」をJICAとの共催で行いました。コロナ禍で2年連続してオンラインによるものとなりましたが、全国の学校や国外の日本人学校などで教員を務める協力隊OV、協力隊参加を目指す教員や学生、さらには現在派遣中の隊員まで約110人が参加しました。

協力隊経験を活かした実践報告では、榎正智さん(バヌアツ/小学校教諭/2001年度2次隊/山形大学附属小学校教諭)に勤務校で行った総合的な学習での取り組みを紹介してもらいました。

5年生がSDGsについて考え、「よりよい未来をつくる1人になる」を自分たちのテーマに設定。市役所をはじめとする大人たちに話を聞き、コロナ禍で元気をなくしている地元・山形市を盛り上げることを決め、オリンピック・パラリンピックのホストタウン応援団になりました。そして、タイ、サモア、台湾の選手と交流し、五輪終了後もサモアの子どもたちとの交流が続いているというものです。協働することの大切さ、そして協力を通じて教育の場が広がることを

伝えてくれました。

「協力隊で得られる力」12の経験知と題する講座では、丸山一則さん(ホンジュラス/技術科教師/1988年度3次隊/兵庫県立宍野高原野外教育センター所長)に、研究会の顧問である佐藤真久(東京都大学教授)がまとめた「12の経験知」について、協力隊、海外日本人学校、日本の教育現場での経験を踏まえて解説してもらいました。「12の経験知」とは、①深く交流する、②相手の立場で考える、③少数の立場を理解する、④多様性を理解する、⑤関係論的世界観、⑥異なる視座と寛容性を持つ、⑦臨機応変・危機対応、⑧受援力、⑨価値を共創する、⑩欲求不満耐性、⑪深い孤独・深い自己肯定、⑫人生の使命・幸福⇄共同体感覚、です。丸山さんは、協力隊経験でこれらを身につけたことで帰国後30年たつ今もその経験を教育現場に活かすことができていると話しました。

その後は、4人程度のグループに分かれて意見交流(ブレイクアウトセッション)を行いました。帰国後に感じる途上国と日本社会とのギャップや教育現場での悩みについて、あるいは派遣予定の隊員が準備すべきことを相談するなど、それぞれ有意義なものとなりました。

研究会は、協力隊を経験した教員

が世界と日本で生き生きと活躍できるように、実践的な教育の実現を目的に活動しています。今回のシンポジウムでは「12の経験知」について、途上国での経験とそこからの成長の具体例をもとにして理解を深めることができました。今後も途上国経験を通して得られる力を教育現場に活かせるよう研究を進めていきます。

今回のシンポジウムは、22年12月25日にJICA横浜で開催する予定です。



2



1

1 JICA横浜からオンライン配信でシンポジウムを行った全国OV教員・教育研究会とJICA関係者

2 シンポジウムは2年連続してオンライン配信で実施



特集

語学講師、VC、OVの知識と
経験を集めました

活動言語を 身につける



多くの協力隊員が赴任して最初にぶつかる壁が、コミュニケーションの重要ツールである言語だ。訓練所でグンと語学力が上がった隊員でも、任地の人々が話す言葉が聞き取りにくかったり、こちらの発言を聞き取ってもらえなかったりと、苦労することは多い。本特集では、現役隊員の応援団でもある、訓練所の語学講師や在外事務所企画調査員「ボランティア事業」(VC)、さらに先輩隊員(OV)と、総勢15人にご協力を仰ぎ、言語習得のコツを愛情込めてお話しいただいた。言語を習得したことで、活動が大きく前進したと話すOVは少なくない。言語の壁を感じたとき、ページを開いてみてほしい。

Text=ホシカワミナコ(本誌・P5)、新海美保(P6-13)
Photo=ホシカワミナコ(本誌・P7ブライアン先生、P8サネ先生、P12石濱さん)、大竹幸乃(本誌・P11) 写真提供=胸ヶ根青年海外協力隊訓練所、二本松青年海外協力隊訓練所、ご登場いただいた各位

LESSON 1

駒ヶ根&二本松から鼓舞激励!

訓練所語学講師陣が伝える、習得の心得

青年海外協力隊訓練所で訓練生に語学を教える語学講師は、巣立っていった隊員のことを今も心に留めている。今回は10人の講師から、担当言語の習得力アップのポイントや心得を聞いた。

※本記事内では、駒ヶ根青年海外協力隊訓練所を駒ヶ根訓練所、二本松青年海外協力隊訓練所を二本松訓練所と表記しています。

英語

フォーマルも学びましょう

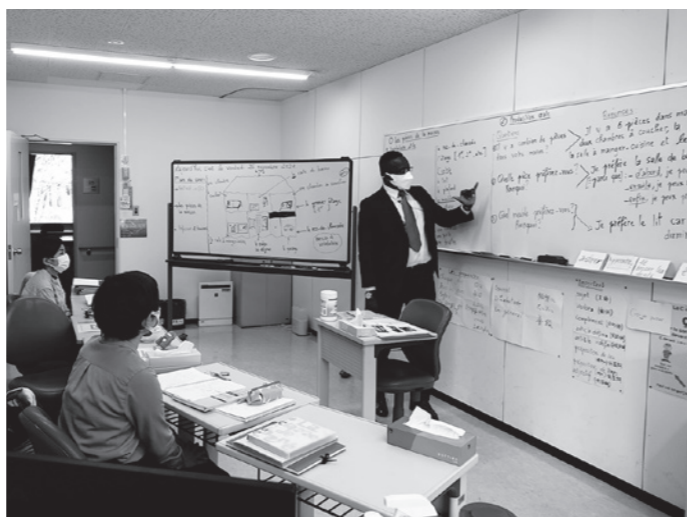


ブライアン・ドリチュラー先生

アメリカ・ニューヨーク州出身。1995年に来日し、2010年から駒ヶ根訓練所英語講師。

文法や読解の力も大切ですが、英語は会話で実際に使ってみるのが一番身につきます。間違いを恐れずにどんどん話して、カジュアルな言葉とフォーマルな言葉の両方を使い分ける技術を身につけていきましょう。例えば自動販売機で飲み物を買うとき、「買う(buy)」か「購入する(purchase)」か迷うかもしれません。正解はbuy。Purchaseはフォーマルな場面使います。語学の習得に近道はありません。

コロナ禍の語学訓練。感染症対策をし、少人数制で実施



フランス語

専門分野の言葉も大切



サネ・ムツサ先生

1999年に初来日し、2002年から長期滞在。06年と20年に新潟大学で博士号(理学/言語)取得。07年から駒ヶ根・二本松両訓練所フランス語講師。

フランス語と日本語では文の作り方が異なります。習得のコツはインプットするときに日本語ではなく、フランス語の文法・語順で学ぶ癖をつけること

スペイン語

基本に立ち返る
勇気を



石井裕之先生

ホンジュラス/農畜産物加工/1986年度3次隊・東京都出身。1993年から駒ヶ根訓練所スペイン語講師。教材開発なども手がける。

スペイン語は日本語と母音が同じで日本人にとって比較的聞き取りやすい言葉ですが、アクセント記号がついた

せんが、シーンに合った単語や文章を習得できると自信がきます。ネイティブのように流ちょうでなくても、派遣国では臆せずチャレンジしてください。趣味や好きなことの延長で身につける方法もお勧めです。私は海外の作家の和訳小説を読むのが好きなので、本を通じて知らない言葉を辞書で調べたり、新し



ブライアン先生は読書で日本語を学んだ

と。日本語は主語を省略することが多いですが、フランス語の場合は主語、動詞、目的語が必ずあり、その前に冠詞や前置詞がきます。前置詞は日本語にもありますが、数などを示す冠詞はあまりありません。その点を磨くと任地で役立つと思います。日常会話はある程度できるようになると思いますが、職種に関連した単語を覚え、語学力を鍛えましょう。対話できることが大事です。間違ってもいいからとにかくポジティブな姿勢でコミュニケーションをとみましょう。努力すれば後悔はしません。配属先でも努力する側の人間であり続けてほしいのです。

自分を
見せること



ジャッキー・ニューポートジュニア先生

日米両国で育ち、日本企業で人材育成や学校開設に携わる。青年海外協力隊広尾訓練所講師を経て、1995年から二本松訓練所英語講師。

訓練所では話すトレーニングに力を入れています。私の役割は隊員の皆さんに自信を持ってもらうこと。トムク

単語の発音や男性・女性名詞、動詞の変化などスペイン語ならではの基本ルールがあります。訓練所で学ぶ期間はとても短く、任地でも学び続けなければ上達しません。現地での生活に慣れるまでに訓練所で学んだ基本を忘れてしまいかもかもしれませんが、そのとき、どうか心を無にしてゼロからやり直す勇気を持ってください。語学上達に必要なのは、独学に耐え得る基礎と、そこに立ち返る精神です。協力隊の活動は、観光や語学留学などと違って、自ら人々のなかに入り込み、課題を見つけて解決を目指すという特徴があります。まず自分が何者かをしっかり伝え、配属先で何が必要かを把握するための「質問力」が求められます。伝えたいことを正しく伝えるために、やはり発音は重要です。

かつて無口でシャイな隊員がいて、語学力は全般的に低かったのですが、訓練期間中に「無口を直そう」と自分を追い込んでしゃべり続けていたら、少しずつ上達していきました。任地で話す努力を続けた結果、2年後には現地の人が話しているかのように話して帰ってきたのです。語学の上達と同時に、雰囲気もガラリと明るくなっていました。

語学力が伸びるのは、どんな「しゃべる人」。そして、コツがある。とすれば「好き」になることでしょ。語学の上達には近道はありませんが、そ

の国や人を好きになり、もっと知りたい、正しく話したいと思う気持ちが上達につながります。

待たないのが
ラテンの会話



マリア・ヘス・エスクデロ先生

スペイン出身。スペインの中学校教員などを務めた後、1991年から駒ヶ根訓練所スペイン語講師。

日本人は相手の言うことを最後までゆっくり聞きますが、ラテンの国々では相手が話し終わる前に意見を伝えたり質問したりします。相手の意見に同調するばかりでなく、時に反対の意見を言ったりすることで話を発展させていくのです。だから、聞くばかりでなく、どんどん会話をしてほしい。そのために訓練所で学んだ基本を復習し続けてほしいのです。正しい文章を何度も繰り返しながら定着させる方法として、派遣国でDELE(スペイン語検定)の受験をお勧めします。

語学の勉強はスポーツと似ていて、テレビでサッカー選手を見てもサッカーがうまくならないように、語学も毎日繰り返し練習することが重要です。やめたら筋肉は衰えてしまいます。語学上達のコツは「繰り返し」に尽きると思っています。

アラビア語

音声を使った
練習が大切



黒木靖子先生

ヨルダン/手工芸/1994年3次隊・千葉
県出身。カイロ・アメリカン大学大学院で
修士号(アラビア語教授法)取得。2011
年から二本松訓練所アラビア語講師。

アラビア語は、イスラム教の聖典であるコーランの言葉であり、アラビア語を公用語としない国や地域でも使われていて、フスハー(正則アラビア語標準語)とアンミーヤ(方言)が存在します。訓練ではフスハーを中心に学びます。フスハーは学校教育やマスメディアで使われており、その規則をよく理解することがアンミーヤや上達につながります。左右の文字がつながったときに形が変わるビギナー泣かせの言語といわれますが、文字と発音がリンクしないと次のステップに進めないため、基礎が大切です。喉の奥で発音する独特の音(咽頭音)があり、文法にも規則や例外が多いので、習得には時間を要します。

訓練所では、音声を使った練習、リスニング・リピーティング・シャドーイング・音読・穴埋め式ディクテーション・シヨンを要します。

派遣国では家庭教師をつけて自分の作文や録音・録音したデータの添削をしてもらったり、テキストや単語集を音読してもらって録音したりと、独自の教材を作ることをお勧めします。

③生活のなかでBGMのように聴く。リピーティングは「音声を区切りの良いところで一時停止し、同じように発音する」。シャドーイングは「音声を止めずに同じように発音する」。特にリピーティング→シャドーイングの順番が大切です。会話編の音読はストップウオッチで速度を測定し、音源との差を比較します。穴埋め式ディクテーションは、会話編のテキストをコピーし、重要単語を修正テープで消して再度コピーしたものを利用し、音声を流して書き込んでいます。



アラブ世界では最初に好意の表明を

アラブ世界において大切なのは、初対面でも、相手にまず好意を伝えること。部族社会ではよそ者を警戒し、相手が敵か味方かを判断する風潮があるので、まず「この国(町、村)が好き」「あなたに会えて嬉しい」等と伝えて下さい。好意の表明がアラブ世界で受け入れてもらう第一歩なのです。

スワヒリ語

上達のカギ
は目的意識



エスタ・サムエル・カノマタ先生

タンザニア・タンガ出身。青年海外協力
隊広尾訓練所講師を経て、1995年から
二本松訓練所スワヒリ語講師。

スワヒリ語は、周辺国を含む東アフリカ一帯で広く使用され、スワヒリ語人口は1億人にも上ります。文字はローマ字で、発音は日本語と似ているため、日本人にとって比較的発音しやすい言語です。ただ文法はアジアやヨーロッパの言語と全く異なるため、初めて学ぶ人は戸惑うかもしれません。文法と語彙を習得する近道は、会話で覚えることだと思います。隊員がスワヒリ語を上手に話せば、現地の人たちは心を開きおしゃべりに花が咲き、活動が楽



コロナ禍以前のスワヒリ語の語学訓練の様子

しくなると思います。言語の習得が早かった、ある訓練生のエピソードがあります。かつてタンザニア旅行中に病気にかかってしまいました。当時英語もスワヒリ語も話せなかったため、病院にかかることもできませんでした。しかし、現地で偶然出会った協力隊員に助けられたそうです。彼はその出会いをきっかけに協力隊を目指し、二本松訓練所に入所しました。語学の力をつける意義を経験から理解できていた彼はとても意欲的で、その姿勢はほかの生徒にも広がっていききました。なぜ学ぶか、目的意識がしっかりしている人は語学の上達も早い。恥ずかしがらず、ミスを恐れず、おしゃべりになることが大切です。

シンハラ語

大きな声で
毎日発音の練習



シリパーラ・ウイラコーン先生

スリランカ出身。1986年に来日し、99年
から駒ヶ根訓練所シンハラ語講師。

シンハラ語は、スリランカの公用語の一つです。多くの隊員は訓練所で初めてシンハラ語に触れます。アとエの中間のような日本語にない音もありますが、文章の語順は主語・述語・動詞と日本語と同じで、日本人にとって比較的学びやすい言語だと思います。半面、単数・複数形、男性・女性・中性名詞などに応じて語尾の変化が異なるなど、難しい側面もあります。文字もアルファベットとは異なります。

訓練所で語学力が飛躍的に伸びた人は、早朝から大きな声で発音の練習をしたり、授業の前後に「間違いを正してほしい」と質問に来たり、訓練期間中ずっとシンハラ語に触れる努力をしています。

最近では、南米に赴任後、コロナ禍で帰国となり、任地替えてスリランカに行った隊員がいます。彼は1度目の派遣で、語学力が活動に大きな影響を与える

ことを身をもって知ったので、寝ても覚めてもシンハラ語を使うようにし、短期間で上達したそうです。

私は日本語の習得にあたり、新聞やテレビからもたくさんさんの情報を得ています。任地ではまず耳で覚えて、それをまねするのが効果的だと思います。

ネパール語

「通じれば
よい」では
伸びない



デヴェンドラ・サヤミ先生

ネパール・カトマンズ出身。1980年に来
日。二本松訓練所講師を経て、84年か
ら駒ヶ根訓練所ネパール語講師。

短期間で上達する人に共通するのは「意識」に尽きます。ネパール語はネパール以外でほとんど通じない言語で、動詞の語尾変化があるなど難しい側面もあります。それでも「深く知りたい」「ちゃんと伝えたい」という意識を持てるかどうか。通じればよいという意識ではなかなか伸びません。

「現地で恋人ができる」と話せるようになる」とはよく聞く話ですが、恋人をつくるだけでは不十分で、相手を深く知ろうとする意識が、語学のレベルアップ

インドネシア語

笑顔でコミュニ
ケーションを



エディザル先生

インドネシア出身。1987年に来日。駒ヶ
根訓練所講師を経て、95年から二本松
訓練所インドネシア語講師。

インドネシア語はローマ字表記で語順は英語に似ているため、比較的学びやすい言語です。周囲の人と積極的にコミュニケーションを取りながら、語学を習得してください。

訓練生には「まず自分のことを好き

になり、相手を好きになってほしい」と伝えていきます。日本人は謙虚で礼儀正しいですが、自己肯定感が低いように思いますが、自分を認めて、他人や他国のことにも寛容でいられるとよい。それが語学取得の秘訣です。

インドネシアは世界で最も笑顔が多い国といわれますが、相手が笑っていないと不安になります。インドネシアと日本は文化や習慣も違いますが、周りの人を観察しながら、笑顔で明るく信頼関係を築いていける人は、語学の上達も早いと思います。ストレスで免疫力が低下してしまったり活動どころではなくなってしまうので、まずは笑顔。隊員同士で互いに助け合いながら楽しく活動してください。



インドネシアでは笑顔も大切に

LESSON 2

通訳経験者のOVが伝授

隊員時代に やってよかった学習法

目標設定し、少しずつレベルを上げていく



かねこ ひかる 金子真輝さん
(コスタリカ/野球/2015年度2次隊・東京都出身)
6歳から高校まで野球を続け、大学でスポーツ心理学を学ぶ。野球界でスペイン語通訳になりたいと、卒業後に協力隊に参加。帰国後、2018年から2021年まで福岡ソフトバンクホークスのスペイン語通訳。2022年から留学。

コスタリカで野球の普及に尽力した金子さんは、帰国後、日本のプロ野球界でスペイン語通訳として活躍した。短期間でどのように語学力を身につけたのか。「ポイント」は事前の目標設定だと思えます。こう話す金子さんは、派遣前からプロ野球選手の通訳になるという目標を立てていた。球団に入るために必要な語学資格の要件は提示されていなかったが、指標として活用したのがD E L E (スペイン語検定)だ。スペイン語圏への留学や就職などの際に語学レベルを保証するA1からC2レベルまでの試験で、100カ国以上で実施されている。金子さんがスペイン語を学んだのは訓練所からだったが、「2年後の目標を『B2取得』と定めて、赴任後数カ月でA1、半年でA2、1年でB1の過去問題を解きました。段階を踏んで少しずつ弱点を克服し、レベルを上げていくことで無理なく目標に近づけると思ったからです」。途中、伸び悩んだときは、現地で通っていた語学学校の

先生に間違いを指摘してもらい、弱点を見つけて克服する学びに集中した。派遣当初はわからない言葉に囲まれて「しんどい時期もありました」と振り返る。金子さんは、単語量を増やそうと、いつも2種類のノートを使っていた。1冊は携帯できるサイズの小さなメモ帳、もう1冊は家でじっくり書き込む大学ノート。「活動中などでわかんかった単語はメモしてあとから調べました。コスタリカは時間の流れがゆっくりで、隙間時間を見つけてはポケットからメモを取り出して、直前の会話でわからなかった単語やフレーズを書き込んだり、読み返したりしていました。メモを取っていると配属先の同僚やホームステイ先の家族が教えてくれて、そのときの会話を思い出しながら覚えてきた単語もあります」。覚えにくい言葉は、何度もメモを取ることで苦手な単語として意識づけ、日常会話のなかで使った。「スペイン語の習得にあたり、机に向

かって『語学づけ』に追い込んだ感覚はありません。むしろ活動中や娯楽を共有できる人との会話のなかで盛り上がったたり、『もっと伝えたい』と思ったことがレベルアップにつながったと思います。そう話す金子さんは、部屋にこもらずリビングで過ごす、食事会に誘われたら断らない、などを意識して行動していた。「無口な人やシャイな人は、何か趣味や共通の話題で会話ができたら、恥ずかしさの壁を超えられるかもしれない。僕の場合、スポーツに助けられた2年間でした」

金子さんはこの冬、アメリカに渡った。スポーツマネジメントを学び、アメリカの野球界との太いパイプをつくるためだ。「途上国や野球が栄えていない国でも才能ある選手が活躍できるように道をつくりたい」という金子さんは、目標を定め、着実に実行していく姿勢は、語学の習得に悩む隊員たちのヒントになる。

臨床検査技師の岩佐尚子さんは、長年、日本の検査センターや製薬会社などで治験薬や微生物の検査などの仕事を続けてきた。その経験を生かして、40代でシニア海外ボランティアとしてカンボジアに渡り、農業大学の教壇に立った。以降、ネパールやトルコでも活動した。3つの国で3言語を習得した岩佐さんは、「短期間で語学を習得するには配属先の要請内容に応じて、話す・聞く・書く・読む、のどれを強化したいか優先順位をつけるのが大切だと思えます」と話す。

カンボジアでは食品検査の方法などについて複数の生徒を相手に授業を行った。そのため、まず板書に使う「書く」に狙いを定め、授業前に入念に備えた。しかし、教室で授業をしていても反応がない。「途中でちゃんと伝わっていないことに気づいたのです」。

クメール語には、喉に力を入れてはつきり発する音や、ため息を漏らすように発音する音など39種類もの母音があり、正確に伝えることは簡単ではない。岩佐さんは書く練習と並行して、週2回語学学校に通い、発音を直してもらいながら「伝わるクメール語」の習得に力を入れた。「語学学校の先生は厳しくて涙が出るほど悔しい思いも

しました。でも話せると、伝えたいことが伝わるようになり、生徒から話しかけられる機会が増えました」。

国外で技術を伝えるやりがいを感じた岩佐さんは、カンボジアから帰国した1年後、次はネパールの保健省に派遣され、妊産婦検診や予防接種の推進など乳幼児支援プログラムに従事した。会話の相手は、妊産婦や乳幼児を連れた母親が多かったが、識字率の低いネパールでは、文字を書いても伝わらなかった。そのため、栄養バランスの良い食事や予防接種などについて書かれた現地語のテキストを使って「話す(伝える)」方法に力を入れた。クメール語に比べてネパール語は母音の数も少なく「習得しやすかった」と岩佐さん。サンスクリット語由来の両言語は、共通の単語があり、そのルーツを調べたりしながら、楽しんで学んだ。

3カ国目のトルコでは、北東部にある食糧農業畜産局に派遣され、特産品を生み出すプロジェクトに携わった。どんな特産品を作りどう売るか、地域の人々の声を知るため、岩佐さんは「聞く」スキルを磨いた。協力隊の訓練所ではトルコ語の訓練はなかったため、まず自分に合った辞書を手に入れようと、本屋に通い詰めて、写真と例

文が掲載されている子ども向けの参考書を購入した。

さらに、円滑な調査活動のためにフォーマルな言葉遣いも積極的に学んだ。「トルコに限らずどの国にも丁寧語や敬語があります。敬語の定型句を覚えて意識的に使うことで、責任ある立場の人とつながり活動がうまく進むこともありました」。

2021年夏、岩佐さんは、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のトルコ語通訳として、トルコとアゼルバイジャンの選手をサポートした。「帰国後もトルコの知人とSNSでやりとりしたり辞書を読んだり、細々と学び続けていましたが、競技関連の単語は使ったことがなく少し緊張しました。お世話になったトルコの選手のために少しでもお役に立てればと思って通訳をしました」。

現在、岩佐さんは検査技師の仕事が続けながら、外国人向けの旅行ガイドや園児の送迎ボランティアなど多彩な活動をして日々を楽しんでいる。「コロナ禍が落ち着いたら、また海外ボランティアに挑戦したい。次の言語も言葉から文化や歴史のつながりを知り、推理小説を読むように学びたい」と、飽くなき挑戦は続く。

「話す」「聞く」「書く」「読む」の優先順位をつける



本屋で見つけたトルコ語の辞書(写真上)。子ども向けのテレビ番組で発音をまねるトレーニングも繰り返した



いわさ なおこ 岩佐尚子さん
大阪府出身。シニア隊員として3カ国で活動(カンボジア/食品検査/2007年度0次隊、ネパール/公衆衛生/2010年度4次隊、トルコ/農産物加工/2014年度4次隊)。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では、言語チーム通訳ボランティアを務める。



野球隊員としてコスタリカのサントドミンゴ野球協会に配属され、小学校などで野球を教えながら野球の普及に尽力した



なかほら じゅんろう
中原 二郎さん

民間企業を退職し、協力隊に参加（バブアニューギニア/コンピュータ技術/2001年度1次隊・広島県出身）。2005年、短期緊急シニア隊員としてマラウイに派遣。06年から、VCなどでシリア、イエメン、ソロモン諸島、スリランカ、ラオス、ガーナへ赴任。

いしはま ゆみこ
石濱 由実子さん

日本の農場などを経て、協力隊に参加（パラグアイ/養鶏/1987年度3次隊・神奈川県出身）。JICA事業の技術協力プロジェクト調整員およびVCなどとしてコスタリカ、ホンジュラス、パラグアイなどラテンアメリカ各国で勤務。



こばやし あき
小林 亜希さん

日本の小学校勤務後、協力隊に参加（ブルキナファソ/小学校教諭/2006年度0次隊・福岡県出身）。2011年から21年まで、VCとして、ベナンやマダガスカル、ブルキナファソ、セネガルのフランス語圏で隊員をサポート。



LESSON 3

元企画調査員
が実感

語学が 上達する隊員の共通点

Q 語学力が伸びる隊員の 共通点は？

小林さん 現地で受験できる語学試験に申し込むなど目標を持って学び続けること。一人で学ぶのは根気がいるので、勉強会を開催するなど、ほかの隊員と切磋琢磨していた人もいます。早めに自身の得意技能や語学習得法に気づくことも重要です。現地の人と話すことは大切ですが、隊員のなかでも読むのが好きな人は新聞を読んでそれを話題に会話したり、書くのが得意な人は日記を書いたり、聞くのが好きな人はラジオを活用したりしていました。

配属先に提出する月次レポートをフランス語で書いていた隊員がいて、最初は簡条書き程度でしたが、そのうちに努力が認められて配属先からアドバイスをもらえるようになりました。月を重ねることに起承転結のある立派な文章に変わっていき、その成長ぶりに感動しました。
石濱さん 隊員の最終報告会に参加した際、隊員とその配属先の同僚のスペイン語がそっくりで驚き、同時にほほ笑ましく、うらやましく思いました。いかに任地の人と積極的にコミュニケーションを取ってきたかがわかる瞬間でした。

現地語、レポートはフランス語、というケースが多いと思います。現地語は辞書がないことが多いので、メモを取って自分で辞書を作っている隊員もいました。2つの言語を同時に学ぶのは大変ですが、困ったことがあれば配属先や周囲の人に遠慮なく聞く。現地の人と一緒にいる時間が長い人ほど伸びが早いです。表情豊かに話す隊員は好感が持たれやすく、語学力を超えたコミュニケーション力を身につけていると感じます。

伝えたいという気持ちを 諦めず努力すること（小林）

石濱さん 日本人は正しく話そうと思って黙ってしまいがちですが、スペイン語圏では間違えてもいいからとにかく話すこと。「私はあなたとコミュニケーションしたい！」ということを表現すれば相手も耳を傾けてくれますが、無反応だともも考えていないとスルーされてしまうことがあります。もちろん中南米のなかでも国や地域によって違いはありますが、ラテンの人々は概しておしゃべり好きな人が多いです。口だけでなく、目、体、筆記用具などなんでも使ってみてください。ある隊員は広いスパーパーで卵売り場が見つからず、店員に聞こうにも「たまご（huevo）」という単語が思い出せず、店員の前で鶏が卵を産むジェスチャーをし、無事卵売り場まで連れていってもらえたそうです。この経験以降、「huevo」は忘れませんでした。諦めずにジェスチャーを使って伝える印象的なコミュニケーションが増えれば、語彙も増えていくと思います。ハサミに「tijera」、ア

語学力が向上する隊員は、語学試験や語学学校、個人レッスン、ラジオ、YouTubeなどさまざまな方法で勉強を続けています。ただ協力隊に求められる語学力は、一般的な語学力とは少し異なる気がします。

現地に溶け込み、現地の人々の目線で、というテーマを鑑みると、隊員に必要な「語学力」とは「コミュニケーション力」が半分以上を占めると感じます。任地の言葉を正確に話す・使うことはもちろん大事ですが、まずは人間関係構築のために自分を知ってもらう、相手を知る、理解する・理解してもらうのが先。正確さを求めるあまり、そこが後回しになると活動や生活に不便なところが出てしまいがちです。

話し方が現地スタッフと そっくりになる（石濱）

中原さん 私の場合、アラビア語圏のほかアラブ語やシンハラ語など現地語を必要とする国々で仕事をしてきましたが、どの言語にも言えるのは、難しく考えない、シンプルに伝える、これに尽きるでしょう。

イロンに「plancha」など、家中のものに単語を貼りつけて覚えたという隊員もいました。

中原さん 配属先では、まず口語での会話を広げていくことです。ネットが通じる環境であれば、タブレットやスマホなどでGoogle翻訳を使ってコミュニケーションを図るのも一つのツールになり得るかもしれません。私個人では、英語で言えばシャドーイングという学習方法はリスニング力を上げるのに効果がありました。アラビア語も、市場の人や運転手、知人などが話す内容をオウム返しにして口に出すことで、日常会話程度の語学力を習得していったように記憶しています。

読み書きを強化する際、都市圏であれば新聞を活用するのも一つの手段ですが、隊員の任地は辺境地が多いため、活動上で見聞きする文章や市場など生活圏で目にする単語や表現を中心に、とにかくたくさん読んで、読み書きの練度を上げるのがよいでしょう。難しいのは話し言葉と読み書き言葉が異なるアラビア語で、両方をマスターするには2倍の学習が必要です。活動上頻出する文章を数多く読むとよいと思います。

Q 隊員へのメッセージを お願いします

小林さん 隊員の間報告会で、現地の人々がニコニコしながら聞いているのを見て、語学は完璧でなくても人間関係はつくっていきけると感じました。他方、活動がうまくいかないのは、ミスコミュニケーションに起因する場合もあります。語学力を向上させるために努力し続ける

複数の国の在外事務所で企画調査員[ボランティア事業](VC)として隊員を支えてきた3人に、任地で語学力が飛躍的に伸びたと感じた隊員の共通点を、ご自身の勉強法と共に教えてもらった。

Q 任地での伝え方のコツは？

小林さん フランス語圏では、表現力が乏しいうちは、まず短く結論を言うてから、理由を補足していく話し方を意識するとよいかもしれません。日本語は動詞が最後に来るのでその感覚で話をする、「結局、何が言いたいのか？」と言われてしまう隊員もいます。

私の例では、ベナンで現地スタッフから「もっと大きな声で話したほうがいい」と言われ、その後はほかの国でも大きな声で話すようにしていました。ところが、島国のマダガスカルでは「高圧的」と言われ、同じフランス語圏のアフリカでも、国や地域によってコミュニケーションの仕方が異なることを知りました。現地の人々の話し方を観察し、まねをするとうよいと思います。アフリカのフランス語圏では、現場の活動は

ことは、相手と接するときの気持ちの余裕につながり、人間関係が構築されれば、活動の強みになります。それには「自己紹介」も重要で、自分や活動のことはもちろん、JICA海外協力隊を説明できるように、準備しておくことをお勧めします。

石濱さん 活動中、特に初期は、耳で聞いて覚える「サバイバルレベル」でいいので、とにかく積極的に「伝えたい」「わかりたい」と意思表示をすることで、双方の理解が進み、自信がついてくると思います。

もともと語学が苦手という隊員も、「コミュニケーション力」を発揮することで人間関係ができていって、相手を知らりたい、もっとちゃんと伝えたいという気持ちが自然に芽生えてくると思います。そして、そこそが語学力向上のモチベーションにつながっていくと思うのです。

良好な人間関係が あつてこそ（中原）

中原さん 挨拶をはじめできるだけたくさん話すことで、語学力の向上だけでなく人間関係の構築にもつながり、活動の進捗にも影響します。語学力は高くても、配属先でほとんど誰とも顔を合わせることなく自室で過ごしていた隊員は、配属先から不信感を持たれ、活動がスムーズにいかないことがありました。

人と人とのつながりこそが隊員の醍醐味です。良好な人間関係の構築は語学力向上にもつながるので、意識して現地の人々との交流を深めていってください。

お話を伺ったのは

まつぎかけんじ
松阪健児さん

PROFILE

JICA横浜 総務課 専門嘱託(海外移住資料館担当)。
ブラジル・サンパウロ州生まれの日系三世。ポルトガル語で生活する日系人が多いなか、日本語に囲まれて暮らし、大学進学以降は日常生活で使うのはほぼ日本語だったという。日系人が設立したサンパウロ人文科学研究所で10年間、勤務したのち、2018年来日。

サンパウロにある「世界最大の日本人街」、リベルダーヂ地区には鳥居や日本風の街灯もある(写真提供:久野真一/JICA、2011年)



派遣国の 横顔

知っていますか? 派遣地域の歴史とこれから (ブラジル)

世界最大数の約200万人の日系人が暮らすブラジル。
移住を縁に長く太い絆で結ばれています。

ブラジルの基礎知識



ブラジル

面積: 851.2万平方キロメートル(日本の22.5倍)
人口: 約2億947万人(2018年、世界銀行)
首都: ブラジリア
民族: 欧州系(約48%)、アフリカ系(約8%)、東洋系(約1.1%)、混血(約43%)、先住民(約0.4%)
(ブラジル地理統計院、2010年)
日系人は推定約200万人
言語: ポルトガル語
宗教: カトリック約65%、プロテスタント約22%、無宗教8%(ブラジル地理統計院、2010年)

*2021年6月9日現在
出典: 外務省ホームページ
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/brazil/>

派遣実績

派遣開始 : 1986年2月
派遣隊員累計 : 1169人
*2022年1月末現在
出典: 国際協力機構(JICA)

集団移住開始から110年あまり ブラジルに渡った日本人の歴史

ブラジルにおける、日本にルーツを持つ日系人の数は現在約200万人とされる。JICA横浜・海外移住資料館担当職員でブラジル生まれの日系三世、松阪健児さんに、ブラジル移住と日系社会の歴史について、お話を聞かせていただいた。



1908年6月18日、日本からの初の集団移住者を乗せてサンパウロに程近いサントス港に着いた「笠戸丸」。この日は、日本、ブラジル両国で記念日となっている(写真提供:国立国会図書館デジタルコレクション「ブラジルに於ける日本人発展史 上巻」)

日本人の海外への集団移住は1868年のハワイ渡航から始まり、ハワイやアメリカ本土への移住が続いた。サンパウロ人文科学研究所によれば、背景には、明治以降の近代化による急激な人口増加と経済混乱による農村の荒廃があった。北米などで東洋人の移住への反発が強まるなか、1908年6月18日、ブラジルへの最初の集団移住者781人が、「笠戸丸」からサントス港に降り立った。

15世紀末にポルトガル領になったブラジルには、イタリアやドイツからの移住者も多かった。しかしコーヒー農園での労働の過酷さに加えて欧州の工業化などで移住者は減少。ブラジルは、日本人が移住して農業に従事することを歓迎した。一方で、「逃亡を防ぐため、家族での渡航を奨励した」と松阪健児さんは話す。

1920年代の経済危機を受け、日本政府も渡航費を負担するなど移住を奨励、移住者は急増した。すると今度はブラジルでナシヨナリズムが高まり、「日本語学校は禁止され、日本人が集まることが制限された」(松阪さん)。第2次世界大戦が始まると両国は国交を断絶、「少数ながら、強制収容所に入れられた移住者もいた」。

戦後、日系社会では、「日本は戦争に負けていない」と考える「勝ち組」と、敗戦を認める「負け組」が対立、暗殺事件にまで発展した。松阪さんは「勝ち組には、やがて日本に帰ろうと考えていた人が多かったが、財を成すことができなかった人も多かった。負け組には、ポルトガル語も覚えて現地に溶け込んでいた人や、指導的な立場に就いている人も多かった」と話す。

わだかまりは長く残った。

1952年、日本からの移住が再開され、満州(中国東北部)などからの引き揚げ者が多数、ブラジルに入った。63年には海外移住事業団が設立された(JICAの前身機関の一つ)。この頃からブラジルで工業化が始まり、日系社会でも、「高収入を目指し、都市部の医療系や技術系の大学に進む人が増えた」(松阪さん)。

高度成長期になると、日本からブラジルへの移住者は減り、逆に日本国籍を持つ移住者の帰国や出稼ぎが多くなった。90年に日系二世や三世、その配偶者の日本国内での定住や就労が認められ、「テカセギ」はさらに増加。日本政府によるブラジルへの集団移住事業は93年に終了し、2005年には、集団移住でブラジルに渡った総数を、日本に渡った日系人の総数が上回るようになった。

知っていますか？
派遣地域の歴史とこれから
〈ブラジル〉

みずのはるか
水野晴佳さん

日系JV/青少年活動/
2018年度3次隊・宮城県出身

PROFILE

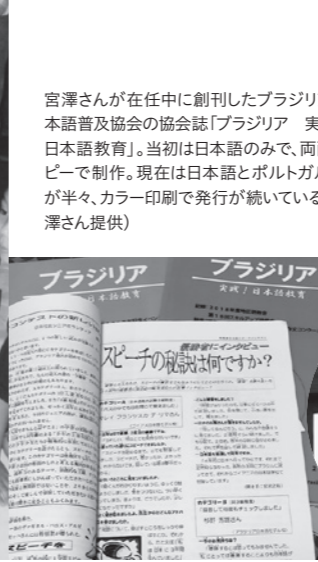
JICA横浜 総務課 専門嘱託(海外移住資料館担当)。
小学校時代、JICAの仕事をしていた父を訪ね、中南米へ。優しい人たちが厳しい生活を送っていることに衝撃を受ける。大学卒業後、中高一貫校で11年間、指導。「生徒たちに夢に挑戦することを話すには、まず自分から」と、ボランティアに応募した。



日本文化の授業で切り花に取り組む受講生たち (水野さん提供)



日本語学校でのかるたを使った日本語学習。混血の生徒も増えていた=2000年ごろ (宮澤さん提供)



みやざわしゅう
宮澤之祐さん

日系JV/企画・編集・広報/
1998年度・京都府出身

PROFILE

京都府内で中学校教諭(社会)を3年間務めたのち、神戸新聞社入社。社会部記者として、在日コリアンや戦争の問題、阪神・淡路大震災などを取材。休職してボランティアに参加した。復職後、記者として活動を続けるが、京都府の教員採用試験を受け、再び中学校教諭に。部活動では野球部の部長も務める。

活動の舞台裏

東日本大震災の被災者を思って

2011年3月11日、東日本大震災が起きた際は、サンパウロ州西部のリンス市からも義援金が日本に送られた。水野晴佳さんがリンスに赴任したのは震災から8年が過ぎた2019年1月だったが、赴任2年目の2020年の3・11が近づいたとき、日本語学校の先生たちから声を掛けられた。

「学校で震災のことを話してほしい」

「その後、どうなったのか知りたい」

水野さんは、震災の被害の大きかった宮城県の出身ではあるものの、津波に遭ったわけではない。そのため、自分には震災について話す資格がないのではとの思いがあったが、声に押されて話をした。



2020年の3月11日に合わせ、激励のメッセージを書いてくれた人に、水野さんは折り鶴をプレゼントした (水野さん提供)

大勢の人が亡くなったこと、しかし世界中から多くの支援で学校なども再建されたこと、月日と共に日本国内でも震災を忘れていない人が増えていること…。

聞いていた人たちからは「絶対に忘れることなんてない」と声が上がりが、津波の映像を見て涙を流す人もいた。多くの市民が「皆さんのことを忘れない」「平和が訪れますように」と被災地に向け、メッセージをつづった。

メッセージは水野さんの帰国後、同県七ヶ浜町の「七ヶ浜国際村」で展示・紹介された。

日系の人々に「寄り添う力」

ブラジルへのボランティア派遣は、日系社会のみ。「ブラジルのなかの日本」で活動した4人のOVに、活動と胸に残る思いを聞いた。

若い三世にどう接するか
日本語教師の悩みもサポート

サンパウロ人文科学研究所の1988年の調査によれば、推計されるブラジルの日系人口は128万人で、うち一世が13%、二世が31%、三世が41%、四世が13%だった。世代別の混血割合は二世が6%、三世が42%、四世が62%だった。現在は、日系六世もいるが、「自分を日系人と認識していない人もいる」(松阪さん)ということもあり、近年は、同様の調査はない。JICAによるボランティア派遣のルーツは、移住に関心を持つ青年を3年間派遣する海外開発青年事業だった。90年には移住シニア専門家事業が開始され、96年には両事業を前身として、

大人にも好評でした」(水野さん)

日本語が通じるなかで
老後を過す喜びを

地域性を加味する必要はあるが、水野さんの例でもわかるように、時代と共にブラジル日系社会の日本語のニーズが変わり、協力隊員への要請にも変化が起きている。

近年増えているのが、福祉分野のボランティアだ。一世、二世の高齢化に伴い、日本人の介護士やソーシャルワーカーなどの要請だ。

高齢者介護職種で赴任した伊牟田浩子さんは、16年からサンパウロ州スザノ

日系社会青年ボランティア事業と日系社会・シニアボランティア事業が始まった。当初のボランティア活動の中心は日本語教育。しかし、現場で活動する隊員たちは戸惑っていた。

ブラジルの学校は半日授業で、そのあと、日本語学校に生徒が来る。生徒のほとんどが普段ポルトガル語で生活している日系三世で、祖父母が日本語習得を望んでも、本人の意思ではないこともあった。「派遣された日本語教師は、欧米人に日本語を教えたことはあっても、子どもに教えたことや、日本で日系人と接した経験はほとんどない人が多かった。そのため日本語を学ぶ意味がわからない子どもにどう接したらいいかと悩んでいるようでした」と話すのは、宮澤之祐さん。99年、日本語教育の支援や広報活動のため、ブラジリア日本語普及協会に派遣された。

日本で中学校教諭を経験し、新聞社を退職して協力隊に参加した宮澤さんは、経験を生かし、任地で発刊した協会機関誌「ブラジリア 実践 日本語教育」で、「叱り方」や「学習の動機づけ」を取り上げた。日系社会の日本語教師のうまくいった活動や、悩みを紹介するルポを書き、一世や二世の日本語教師たちの作文指導もした。「移住した欧米人はまず教会を造った

市の養護老人ホームで活動した。初めてホームを訪れたときの印象を伊牟田さんは「昭和の日本にタイムスリップしたような懐かしい雰囲気でした」と話す。入居者は約35人で、8割が女性。90

代の一世が多く、100歳を迎えた人もいた。ホーム長からは「活動はゆっくり始めた方がいい」と言われたが、入居者たちが「ボランティアが来た!」と集まってきた。

一世たちは移住後もほとんど日本語のなかで生きてきたが、ホームの職員も多くは非日系のブラジル人だ。「寒い」などの日本語は理解できませんが、複雑なことはわかりません。お年寄りも『これがほしい』『これをやってく

が、日本人は最初に学校を造った。教育熱心だったのは、ブラジルで成功してから帰国して、故郷に錦を飾る日のためと聞きました」(宮澤さん)

その後も隊員たちの派遣は続いているものの、時代が下ると共に、ブラジルの日系人が日本語を学ぶ意義やメリットはさらに見えにくくなっている。しかしその一方で、非日系人も含めて「日本文化に関心のある人に、日本文化とともに日本語を教える」というニーズが生まれている。

2018年にサンパウロ州西部のリンス市に青少年活動隊員として派遣された水野晴佳さんは、同地の日本人会館を拠点に日本文化や日本語を教えた。リンス市は日本人移民がつくった町で、日系人が多い地域にある。そのため、日本語学校には日系人の生徒が通っていると思っていたが、赴任してみると、クラスの半分は、日本の文化に関心を持つ非日系のブラジル人で、非日系人の彼らのほうが学習意欲も高かった。クラスは月曜日から土曜日まで、連日、朝、昼、夜と開講。生徒は週に2回受講していて、1回は日本文化、もう1回は日本語を教えた。

「日本文化の授業で一番盛り上がったのは、人気アニメ『鬼滅の刃』に絡めて『武士道』を紹介した回です。日系人にも非日系人にも、同伴で来ていたらしいポルトガル語は使えますが、なぜ、どうしてといった説明まではできません。だから日本語が話せる介護者の存在を待ちわびていたのだと思います」(伊牟田さん)。

お年寄りのなかには、認知症の症状が見られる人もいる。「物がなくなつた」と思い込んで、実は初めからなかったり、自分でしまい込んでいたりということもある。そんなとき、日本語がわかる伊牟田さんなら、「どうしたの?」と声を掛け、話を聞き、「明日また一緒に捜そうね」と納得してもらうことができる。

「介護では、その人の状態の背景に何があるのかを知ることが大切」と伊牟

みの おとしやす
蓑輪敏泰さん

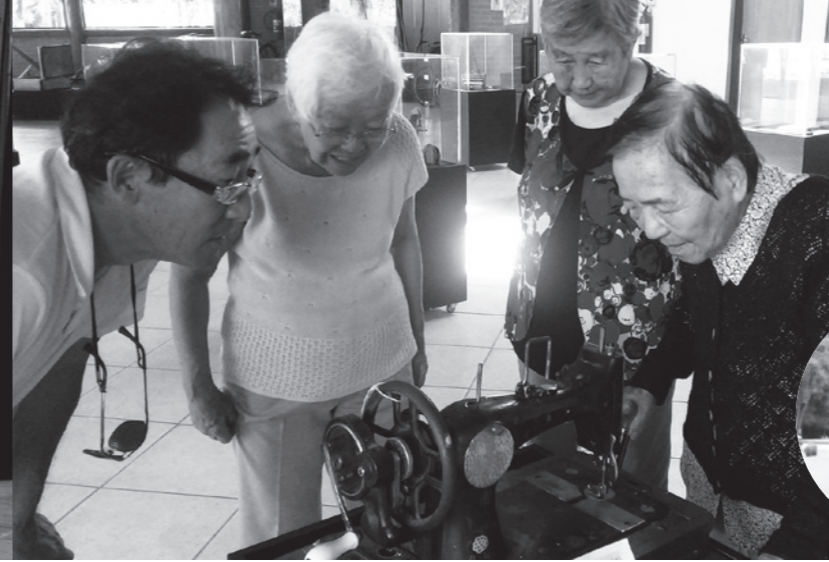
日系SV/文化(和太鼓指導) /
2007年度、2011年度、2014年度・宮崎県出身

PROFILE

東京でサラリーマン生活を送ったのち、帰郷。塾経営、中学校講師、農業を続けるかたわら、町おこしの一環として立ち上げた和太鼓チームを指導。チームの青年らとともに台湾やシンガポールで和太鼓を演奏したところ、外国人が興味をもつことに手応えを感じ、海外での和太鼓の普及・指導の道へ。



ブラジルで和太鼓を指導する蓑輪さん(右から2人目)(左・上写真提供:久野真一/JICA)



移民歴史資料館で古い道具を懐かしそうに見つめるお年寄りたち(伊牟田さん提供)



いむ たひろこ
伊牟田浩子さん

日系SV/高齢者介護 /
2016年度1次隊・神奈川県出身

PROFILE

通所介護(デイサービス)勤務後、介護支援専門員(ケアマネージャー)として、自宅で暮らす高齢者が介護保険を利用するときに必要なケアプラン作成に従事。2014年、社会福祉振興・試験センター主催のスウェーデン現地研修に参加。福祉先進国派遣と日本での介護経験を生かしたいとボランティアへ応募。

活動の舞台裏

「千人太鼓」にもじむ
皇室・皇族への深い敬愛

ブラジル日系社会の日本の皇室・皇族への敬愛ぶりには、非常に深いものがある。年頭に邦字紙は、宮内庁提供の天皇家の写真と共に、「新年に皇室の弥栄を祈る!」の記事を載せるのが慣例。天皇誕生日には、日系団体による祝賀会も行われ、日本大使館は日系社会に向けた祝賀会の動画を制作・配信する。

皇族のブラジル来訪も多く、「千人太鼓」が披露された2008年の移住100周年の祭典には、皇太子殿下(当時。現在の天皇陛下)が臨席された。



約1200人が勇壮に演奏した移住100周年記念の千人太鼓=2008年(写真提供:久野真一/JICA)

しかし、皇室・皇族への思いは、和太鼓指導で派遣されていた蓑輪敏泰さんの悩みを深くすることにもなった。

千人太鼓では、約1200人が太鼓を打つ。長細いステージを15の区画に分けて、参加者の配置を考えた。「自分の子どもは皇太子殿下のお近くで演奏させたい」「何千キロも移動してサンパウロに来るのに、中央から離れた場所では皇太子殿下の目にも留まらない」などの声が上がリ、調整に苦慮したという。

や、使った道具の片づけなどの指示を徹底した。対して若者たち、特に非日系のブラジル人ははじめ戸惑ったという。ブラジルでは学校で生徒が掃除をする習慣もなかったためだ。しかし、苦情が寄せられるようなことはなく、挨拶や片づけの習慣がだんだんと広がっていった。「和太鼓指導より、こっちのほうが仕事だったかもしれない」と蓑輪さんは笑う。

水野さんと伊牟田さんは「日系社会ボランティアは途上国支援とは少し違う」という。それは「日系人の心に寄り添う支援」と同じ思いを口にする。伊牟田さんには、忘れられない光景がある。外出レクリエーションで移民

歴史資料館に行ったときのことだ。お年寄りたちは、旧式のはかりやミシンを見て、「これ、うちにあった」「お姉ちゃんがお嫁に行くとき、持ってた」など目を輝かせ、記憶をたどる会話が続いた。「ここで日本と同じように暮らそうとした人たちがいた。それがここにいるおばあさん、おじいさんたちなんだ」と心から思ったという。帰国時、伊牟田さんは持ち運べるサイズの「日本語会話集」を作り、ブラジルの養護老人ホームに勤める非日系人の職員らに贈った。「二世の高齢者が何を言っているのかを理解してあげてほしい」との願いを込めて。日本での活動に変化があった隊員も

田さん。言葉が通じなければ、それはなかなか難しい。ブラジルでは介護の仕組みも確立していない。職員の多くは准看護師で、医療的な目で入居者を見ていた。伊牟田さんは「ここは、この人たちの家。私たちがおじやましている立場」「自分のお父さんやお母さんを見るつもりで介護する」と心得を伝えたという。入居を嫌がっていたあるおばあさんは、来るなり、「ああ、ここ、日本語通じると元気になった。地域の日系社会のカラオケ大会に利用者みんな出場し、1曲ずつ歌ったことがあった。何の曲を歌うか、どんな服を着て歌うかの相談も盛り上がったそう。

協力隊への要請のなかには、野球や剣道、相撲といったスポーツのほか、和太鼓のような伝統文化もある。蓑輪敏泰さんが和太鼓指導のため、日系社会シニアボランティアとして初めてブラジル太鼓協会に着任したのは、2007年。赴任して最初に取り掛かった大きな仕事は、日本人の集団移住から100年の節目となる08年の記念の祭典で披露する「千人太鼓」の指導だった。ブラジルで最初の和太鼓チームができてから10年もたっていない時期だったが、和太鼓の人気は日系社会に広がっていた。式典での千人太鼓への参加を希望したのは、約70チーム・約1200人にも上ったという。チームは日本の20倍以上の広さがあるブラジル各地にちらばっていたため、蓑輪さんは協会の役員に「1カ所に複数のチームを集めてください。そこに指導に行きます」と伝えた。場所によっては一度に200人以上が集まることもあった。各チームのリーダーに「私は全体を見るので、自分のチームでうまく打てない人を見つけて指導してください」と指示し、やり切ったという。その後も蓑輪さんは和太鼓チームの

青少年に指導を重ね、活動期間は実に7年半に及んだ。ノリのいいサンバのテンポに流れがちなため、テンポをそろえるため、目をつぶって60数えることも取り入れた。「和太鼓の普及のため、指導の要請があれば、どこへでも行きました」(蓑輪さん)。意欲を高めるため、交通費や宿泊費は原則、指導を受けるチームの負担とした。負担を抑えようと、1000キロ以内であれば移動はバス。16時間をかけて移動したこともある。総移動距離は日本との行き来を除けば40万キロ以上、地球と月との距離を超えた。教えた若者や子どもは3000人以上だったという。16年には、ブラジル代表として「第18回日本太鼓ジュニアコンクール」(公益財団法人日本太鼓財団が日本太鼓の後継者育成を図るために毎年日本国内で開催)に出場したチームが3位に入賞し、ルーツの国に錦を飾った。



老人ホームでお年寄りと一緒に活動する伊牟田さん(伊牟田さん提供)

和太鼓指導のため
7年半かけブラジル各地へ

開発途上国の支援と異なる
日系隊員ならではの役割

ブラジル日系社会のボランティアの活動は何を残し、何につながっているのか。それぞれの思いを聞いた。蓑輪さんが和太鼓の指導と共に重視したのが、「和の心」。挨拶などの礼儀

専門家に聞きました！ 失敗に学ぶ 現地で役立つ人間関係のコツ



今月の教える人 おくいとしゆき
奥井利幸さん

タイ/コンピュータ技術/1987年度1次隊・大阪府出身
野毛坂グローバル代表。ITエンジニアなどを経て、協力隊に
参加。帰国後はJICA専門家などとしてアジア諸国で社会的弱
者支援やコミュニティ開発プロジェクトに従事している。ま
た、2016年11月に野毛坂グローバルを設立し、神奈川県横
浜市をベースに、多文化共生の実践活動を行っている。

今月の
お悩み

派遣国の人から好意を寄せられ、過度の
アプローチを受けています。自分は相手
に対して恋愛感情がまったくありません。
うまくかわす方法はありませんか。

(クロスロード編集部が隊員を代表して質問)

「派遣国の人から過剰に言い寄
られたり、待ち伏せされたりして
困った」という話を、隊員から聞
くことがあります。
相手と一緒に活動する同僚や上
司であったり、近所の人であった
り、ホームステイ先の人であった
りとさまざまですが、相手のア
プローチが度を越えて、活動や

生活に支障を来すことも少なく
ないようです。
「任地に溶け込むために性別に
かかわらず多くの人と仲良くし
たい」「トラブルは避けたい」と
いう気持ちは誰にでもあると思
います。誤解を生まないつき合い
方や、良い断り方などはありま
すか。

奥井先生から
のアドバイス

任地に信頼できる相談相手を 複数つくっておくことで 解決できることもあるかもしれません。

慣れない土地で知り合いもい
ない、現地語も流ちょうに話せ
ない、そんなときに声をかけて
くれたり、親切にしてくれる人
がいたら嬉しいですし、この出
会いを大切にしたいと誰もが思
いますよね。丁寧に対応したり、
相手の話に耳を傾けたり、お土
産を渡したりして気を使ったり
するでしょう。

一方で、そうした行為によっ
て、相手に「彼女（もしくは彼
れ）は自分のことを好きなのかし
れない」と勘違いをされてしま
うこともあるようです。

私はタイでボランティア調整
員（現在の企画調査員「ボラン
ティア事業」。以下、VC）をし
ていたとき、隊員のプライベー
トにはできるだけ口出しはしな
いようにしていましたが、それ
でも異性と二人で食事に行くな
ど、勘違いされやすい行動には
気をつけるよう助言をしていま
した。日本人同士では異性間で

あっても、単に友人や同僚とし
て一緒に飲みに行ったり食事を
したりすることもあり得ると思
いますが、文化や習慣が異なる
国や地域では誤解を招く恐れも
あります。

好意を告白されるだけならよ
いのですが、「断ってもしつこ
く誘われる」と困ってしまいま
す。態度で示したり、言葉で断
ったりすることは大切ですが、
相手を傷つけないよう、またプ
ライドを傷つけないよう配慮も
必要です。

職場の上司など社会的地位の
ある年配者からその相手に話し
てもらうことが有効な場合もあ
ると思います。「〇〇さん（つ
きまとわれている隊員）のこと
を気にかけてくれているようだ
けど、彼女（または彼）は日本
に決まったパートナーがいるよ
うだよ」などと伝えてもらう方
法も一つかもしれません。
ただし、本当に恋人がいた場

合ですが、その恋人から話して
もらうのは避けたほうがよいか
もしれません。「ライバル視し
て、もっと火がつく」とタイ人
から教わりました。

大切なポイントは、「逆恨み
されるのを避けるために、自分
一人で解決しようとしないう
と」です。こじれてしまうと、相
手が理性で行動できず、ストー
カーと化してしまうこともあり
ます。任地では日本人が少ない
こともあって目立ちやすいた
め、住まいや行動パターンなど
を突き止められてしまい、身の
危険を感じるようになるかもし
れません。

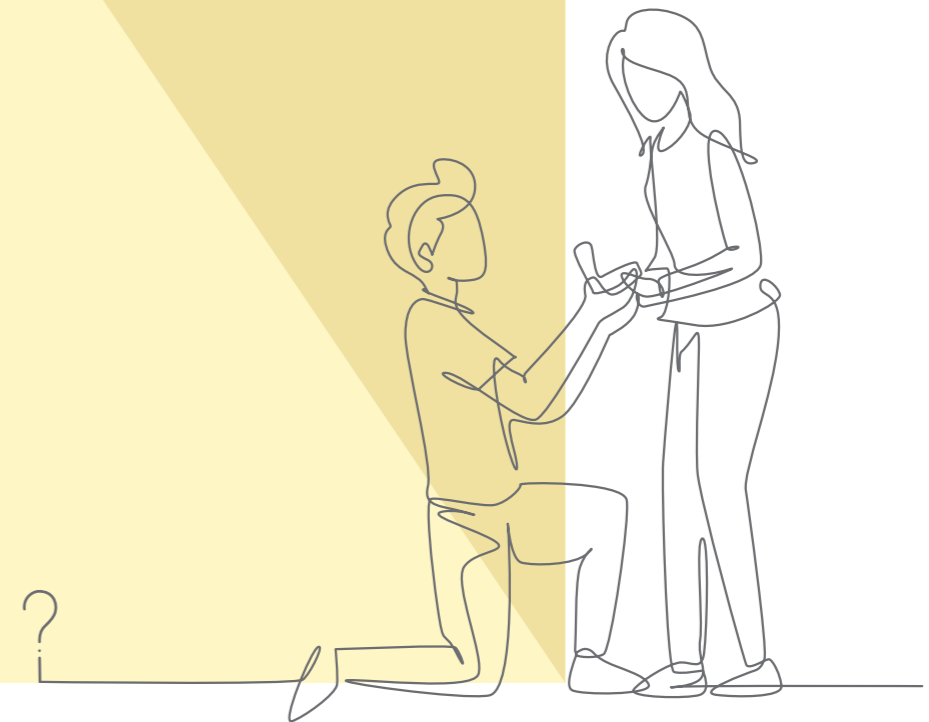
そのようなときは、信頼でき
る人や、VCに相談するなどし
て、早めに対処したほうがいい
でしょう。場合によっては派遣
国の日本人宅などへ一時的に避
難させてもらったほうがよいこ
ともあるかもしれませんが、住
所を変えたほうがよいケースも

あると思います。

ストーリーの被害を受けてい
る隊員にとっては、「どうして
被害者である私が、逃げ隠れす
る必要があるのか」と、納得い
かないこともあると思います
が、任地に慣れてきたといつて
も日本と違って海外です。まず
は安全を第一に考えていただく
必要があると思います。

このような事例を聞くと、任
地の人とのつき合いが怖くな
り、行動範囲が狭まってしま
う人もいるかもしれません。

しかし私のお薦めは全く逆で
す。日頃から、職場の人など特
定の人とだけではなく、例えば
趣味の仲間、スポーツの仲間な
ど、多くの人と交流を持ち友人
をつくることは大切だと思いま
す。何かあったときに助け合
える仲間がいることは、こうした
問題にかかわらず、充実した2
年間になる近道でもあると思
います。



この職種先輩隊員に注目!

～現場で見つけた仕事図鑑



避妊の方法や月経の仕組みについて、手作りボードを使い啓発活動

保健師

分類：保健・医療

地域住民への保健指導、健康管理を通じて、病気を予防し健康的な生活をサポートする。

派遣中：2人(累計:565人)

類似職種：看護師、助産師、公衆衛生

※人数は2022年1月末現在。

#0008



現地校の講義では、缶を使ったカンカラ三線の製作から演奏までを指導

文化(日系)

分類：人的資源

日系社会の学校や、イベントなどにおいて

日本文化を紹介する。

派遣中：0人(累計:170人)

類似職種：日本語教育、青少年活動

※人数は2022年1月末現在。

#0007

Q 保健師としての活動は?
看護師の補助をしながら、患者と積

Q 最初に取り組んだことは?
物品整理をしながら、クリニックの様子を観察しました。看護師は2人だけで人手が足りないのは明らかだったので、薬や医療機器の整理をしたり、診察の補助に入ったりと、看護師の補助に徹しました。そうするうちに、「こうしたほうがよいのでは」と思う部分も見えてきました。そこで、看護師に提案して、受付カードを導入して受付から診察、会計までの流れをつくったり、次回の診察予約を把握するための予約表を作成しました。

Q 要請内容と実際の活動は?
要請内容は、性感染症の治療や避妊薬の提供、妊婦診察などを行っているクリニックでの農村巡回診療、カルテシステム運営などの補助、患者教育です。しかし、派遣を要請した責任者が交代したため、配属先は私が何のために来たのか、わかっていない状況でした。バヌアツに「保健師」という職種が存在しないこともあり、私を看護師として捉えていたようです。最初はそうした現場のニーズがわからず、職種とのギャップに悩みました。

Q 性事情をテーマにした冊子をつくっていますが、その理由は?
多様な価値観を伝えることも協力隊活動の一つと考えたからです。バヌアツでの協力隊経験を通じて、自分の価値観の変化を感じました。そのことを、バヌアツのことを知らない日本の方や、国際協力に関わる人たちにも知ってもらいたいと思い、活動後半に、恋愛や出産、子育てなど、バヌアツの性事情を、任地からSNSで週1回発信し、帰国後に冊子にまとめました。

Q 印象に残っていることは?
帰国する少し前、私が指導した日系人と非日系人で一つのグループをつくり、日系人が主催する「NIHONMATSURI(日本祭)」でエイサーを披露しました。パラグアイでは、日系人と非日系人が協力して同じチームで何かをするということがほとんどありません。日系社会と現地社会の間に大きな壁があると感じていたので、一緒に何かをしたいと企画したものです。これが二つの社会の交流のきっかけになればと思っています。

Q 活動での最大の困難は?
日本の協力団体から贈られたエイサーの太鼓約30個が、現地の郵便局ですべて盗まれてしまつたらブルブルがありました。太鼓がなければ指導することはできません。協力隊に参加する前に、南米から日系人を沖繩に招待し交流する事業を担当していましたが、そ

Q 要請内容と活動内容は?
要請内容は、日系人に日本文化を継承すると共に、パラグアイ社会に日本文化を紹介すること。日本人会・文化協会や日系団体が運営する日本語学校では日系人を対象に、パラグアイ・日本・人造りセンター(CPJ)や現地校2校では非日系人を対象に、講師として日本文化を伝えることです。私が初代の文化隊員だったので、具体的にどんな講座を開きたいのか、各団体、学校の希望をヒアリングするところから始め、それに合わせて講座を決めました。

Q 大変だったことは?
バスでの移動です。9つある日本人会・文化協会を巡回するのですが、片道8〜9時間は当たり前。総移動距離を計算したら、地球1周半にもなりました。それでも、バス内で上映されていた映画を通してスペイン語を勉強したり、パラグアイの音楽を三線で弾くための楽譜を作ったりするなどして、移動時間を有効に使うよう心がけました。

Q 印象に残っていることは?
帰国する少し前、私が指導した日系人と非日系人で一つのグループをつくり、日系人が主催する「NIHONMATSURI(日本祭)」でエイサーを披露しました。パラグアイでは、日系人と非日系人が協力して同じチームで何かをするということがほとんどありません。日系社会と現地社会の間に大きな壁があると感じていたので、一緒に何かをしたいと企画したものです。これが二つの社会の交流のきっかけになればと思っています。

できることを続けていたら
見えてきた予防医療のニーズ



香田美波さん(旧姓:川又) の場合
バヌアツ/2016年度1次隊

PROFILE
茨城県出身。看護師だった母の影響を受け看護師を目指す。看護大学を卒業し、感染症課病棟に3年間勤務したのち、協力隊に参加。帰国後は大学院に進学し、公衆衛生学を専攻。現在は特別区(東京23区)の保健師として母子保健の相談を担当している。

川口曜穂さん の場合
日系JV/パラグアイ/2018年度1次隊

PROFILE
大阪府出身。高校時代から三線、エイサーなどの沖繩の伝統芸能を学ぶ。沖繩の大学を卒業後、沖繩県中城村役場に就職し、国際交流事業を担当。ボランティア休暇制度の導入を村に働きかけ、身分を所属先に残したまま参加する「現職参加」で協力隊に参加。



日本文化が
日系社会と現地社会の
交流のきっかけに

あって良かったモノ

パプアニューギニア



動画も鮮明に！

高画質の写真や動画で生徒も笑顔に 一眼レフカメラ

みやぎたかゆき
宮崎貴行さん パプアニューギニア / PCインストラクター / 2016年度2次隊・福島県出身



700もの島から成り、使用される言語は800に及ぶとされるパプアニューギニア(以下、PNG)には、いろいろな顔立ちの人たちが暮らしていて、「国」というよりも「部族の集合体」といった印象を受けました。

PNGで最大面積を誇るニューブリテン島にある女子高校で、PC教員として生徒にコンピュータ科目を教えたり、同僚である教員たちにサーバーの復旧の方法などを教えたりするのが私の任務でした。

役立ったものの筆頭は、「一眼レフカメラ」です。授業を記録するといった用途だけでなく、生徒たちとの交流にも一役買ってくれました。特に思い出深かったことが二つあります。一つは日本文化を体験してもらおうと、生徒たちに浴衣を着てもらったときのことです。日本から寄付された浴衣(※1)を、同じ町に赴任するシニア隊員(SV)に随伴していた(※2)奥様に着付けてもらいました。初めて着る浴衣に興味

津々の生徒たち。高画質で撮影した浴衣姿の画像を町のスーパーでプリントしてプレゼントしたところ、とても喜ばれました。

もう一つは独立記念日のイベントです。この日、生徒たちは部族ごとにおそろいの衣装や貝のアクセサリを身に着けたり、フェイスペイントをして伝統的な踊りを披露したりします。おのおのが自分の部族に誇りを持ち、またお互いを尊重している様子が伝わってきました。その様子を動画に収め、後日図書室のパソコンに入れて生徒が自由に閲覧できるようにしました。鮮明な映像を見た生徒たちの、嬉しそうな顔は忘れられません。

赴任当初、遠巻きに私を見ていた生徒たちも、こうした出来事がきっかけになってか、「写真を撮ってほしい」と声をかけてくるようになりました。生徒たちとの距離を縮めてくれた一眼レフカメラは、私のPNGでの活動を支えてくれたモノ、まさに「あってよかったモノ」です。

(※1)「世界の笑顔のために」プログラム…開発途上国で必要とされている物品の寄付を日本国内で募り、JICA 海外協力隊や在外事務所を通じて任地へ届けるプログラム。(※2)…現行の制度では、家族の随伴は想定されていません。

友情の「あーん」 エチオピアの ユニークな食文化

エチオピアの人々は明るい。お互いに支え合いながら生きています。知らない者同士でも、「イーニブラー！」と一緒に食べよう」と声を掛け合う。

ある日、私が道を歩いているとレストランのなかから声がした。「イーニブラー！」。見ず知らずの私にも一緒に食べようかと誘ってくれたのだ。その輪に入ると、主食のインジェラ（酸っぱいパンケーキのような物）を大皿に広げ、お肉系、野菜系、豆系

任地の思い出を聞きました。

あの日、

地球の、

あの場所で。



Illustration = 牧野良幸 Text = 浦澤 修

の具を乗せて食べるエチオピアで定番の料理を前に、「グルシャ」という友好の証しとして、お互いに「あーん」と食べさせ合いつつが行われていた。時には口から汁がこぼれそうになるくらい汁だくのインジェラをグルシャされることも。

こんな食事風景見たことありません？ エチオピアは、人と人の触れ合いを大切に、ホスピタリティ精神にあふれる国なのです。

え？ おなががすいていないのに誘われたとき？ そのときは、魔法の言葉を唱えるんです。「ヤタバラケウフヌ」（皆さんの食事に神のご加護がありますように）って。アムハラ語を知らないはずの日本人がこの言葉を言うと、エチオピア人からは大喝采を浴びること請け合いです。

コロナ禍ではこれまでのようにグルシャはできないかもしれませんが、またエチオピアの地で、「イーニブラー！」の声を聞ける日が来ることを願っています。

桂 武邦さん

エチオピア／理科教育／
2015年度2次隊・滋賀県出身

シューカツ記

帰国後、内定までの
就職活動の方法を聞きました。

プロジェクトの成果、
人々の生活の変化を最も
近い場所で見つめたい



今月の先輩

植松美喜さん Miki Uematsu

ホンジュラス/感染症・エイズ対策
2013年度4次隊・京都府出身

就職先：
株式会社かいはつマネジメント・
コンサルティング



事業概要：JICAなどのODA関連機関や、海外進出を検討している民間企業をクライアントとして、途上国の調査・分析、専門技術の移転、プロジェクトの実施などのサービスを提供

植松美喜さんの略歴：

- 1984年 京都府生まれ
- 2008年 4月 大学院修了後、日本メナード化粧品株式会社に入社 研究技術部門に所属
- 2014年 3月 青年海外協力隊員としてホンジュラスに赴任
- 2016年 3月 帰国
- 2016年 8月 株式会社かいはつマネジメント・コンサルティング入社
- 2018年 5月 同社を退社
- 2018年 6月 JICA中南米部中米・カリブ課に専門嘱託として所属
- 2020年 12月 JICAの任期を終え退職
- 2021年 1月 株式会社かいはつマネジメント・コンサルティング再入社 地域産業開発部所属

JICA海外協力隊ウェブサイト

「帰国隊員の進路開拓についての相談受付」

https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career_support/counselor/

※進路相談の対象は、青年海外協力隊および日系社会青年海外協力隊の経験者のみとなります。※対応可能な日は希望進路の分野によって異なりますので、あらかじめ電話またはメールでのご連絡をお願いします。



植松美喜さんは、化粧品会社の研究技術部門に6年間勤務したのち、協力隊に参加し、感染症・エイズ対策隊員としてホンジュラスに赴任した。診療放射線技師免許、保健学修士を取得しているなど保健分野のバックグラウンドはあったとはいえ、まったく異なる業界からのチャレンジだった。

帰国後に進むことになる「開発コンサルタント」という仕事に興味を持つようになったのは、JICAがホンジュラスで実施している保健分野の技術協力プロジェクトに従事していた開発コンサルタントたちと交流を持つようになったのがきっかけだ。プロジェクト

1 協力隊時代 2014年3月～



保健プロモーターを対象とした研修会を実施

配属先のレンピーラ県保健事務所は、県内の保健所の監督、指導を行っている組織です。私のここでの活動の柱は二つ。一つは、学校や地域を巡回して感染症予防の啓発活動を行っている保健所の保健プロモーター（普及員）を対象に、教材作りや研修会を行い、保健プロモーションの質の向上を目指すこと。もう一つは、デング熱に関する知識・態度・行動調査の実施です。約400世帯の住民を対象にアンケートを実施し、デング熱に関する知識と予防行動の関係、地域ごとの差異などを分析し、論文にまとめました。また、ホンジュラスにいる保健分野の隊員が集まり、町内会のリーダー的存在である保健ボランティア向けの教材を作成・配布し、活動に役立ててもらいました。

2 帰国 2016年3月

開発コンサルティング会社に就職したいと思っていたものの、しばらくのんびりするつもりでいたので、求人情報を積極的に探すことはしませんでした。しかし、帰国後に出席した帰国隊員報告会で、進路相談のカウンセラーと話をする機会があり、スペイン語人材を募集している開発コンサルティング会社があると教えてもらいました。それが、今の会社です。その時点では、どの会社に行きたいという具体的な希望はなかったのですが、就職活動に慣れるために、とりあえず応募をしてみようと思い、書類を提出しました。

クトの運営を間近で見て、その仕事ぶりに感銘を受けたという。

「自らは裏方に徹してカウンターパートをサポートする姿が印象的でした。一方的に解決方法を提示するのではなく、辛抱強く答えを導き出しているように見えました」

協力隊に参加した当初は、帰国後の進路は決めかねていたというが、活動の終盤になる頃には、国際協力を仕事として続けたいと考えるようになっていた。そして帰国後、株式会社かいはつマネジメント・コンサルティングへの就職を決めた。

3 書類提出 4月半ば

提出書類 ▶職務経歴書・志望動機書・履歴書

大学院時代に就職活動の経験はありましたが、職務経歴書や志望動機書を書くのは初めてでした。特に工夫した点というのはないのですが、協力隊の2年間で感じたこと、国際協力に関わっていきいたいという思いを、素直な気持ちで書きました。

4 一次試験 5月下旬

内容 ▶面接、筆記試験（適性テスト、英語、スペイン語）

面接は、雑談のような雰囲気なかで行われましたが、その後の筆記試験は半日がかりと時間が長く、かなりきつかったです。語学は、和訳と英訳・西訳があり、技術協力プロジェクトに関する文章を訳すという実践的な課題もありました。

5 二次試験 6月下旬

内容 ▶最終面接

二次試験は社長による面接です。細かなやりとりは覚えていないのですが、開発コンサルタントに興味を持った理由について「現場が変わっていく様子を、一番近い場所で見られるところに魅力を感じる」というようなことを言った記憶があります。

2016年7月上旬に採用決定、8月末に入社

2018年5月 視野を広げたいと、同社を退社し
JICA専門嘱託職員として中南米部中米・カリブ課に勤務

2021年1月 JICA専門嘱託の任期を終え、株式会社
かいはつマネジメント・コンサルティング再入社

さらに「開発コンサルタントとは異なる立場から国際協力事業に携わり、視野を広げたい」と、会社を退職してJICA中南米部に専門嘱託として勤務し、エルサルバドルやホンジュラスの国担当としての業務を経験した。そこで改めて感じたのは、援助機関と現地との間に立ち、現場に最も近い立場でプロジェクトを進める開発コンサルタントの役割の大きさだ。

再入社後の現在は、スペイン語のスキルを生かし、中南米の技術協力プロジェクトを担当。その分野は、農業、金融など、多岐にわたる。

「やりがいを感じる境地に達するにはさらなる経験が必要ですが、尊敬する先輩たちの仕事を間近で見ながら、近づけるように頑張っています」

現在の仕事

入社以降、「農牧バリューチェーン強化プロジェクト（※1）」（パラグアイ）、「金融包摂を通じたCCT受給世帯の生活改善・生計向上プロジェクト（※2）」（ホンジュラス）など、中南米地域で実施しているJICA技術協力プロジェクトで、業務調整、研修やワークショップの運営、情報収集・分析などに携わってきました。途中、JICA専門嘱託職員として中南米部に勤務し、国やセクターという大きな視点での支援戦略、案件形成の過程を経験したことで、多くの関係者の努力により立ち上げられたプロジェクトの実施段階を担うコンサルタントとしての責任をより強く感じています。



ホンジュラスの技術協力プロジェクトでの住民への聞き取り調査

先輩へメッセージ

開発コンサルタントの先輩たちは、向上心が強く、新しい知識を吸収することに貪欲です。将来、開発コンサルタントを目指すなら、知らないことを知りたいと思う好奇心を大切にしてほしいです。学ぶことが好き、楽しいという人に、開発コンサルタントは向いていると思います。どんな仕事を目指すにしても、途上国の日常生活に2年間、どっぷりつかった協力隊での経験は、非常に貴重なものです。それはこれからの人生の強みとなるはずです。

※1 生産、民間、公的、学術部門間の効率的な連携・調整体制の構築を図り、農産物の多様化と商業化に資するバリューチェーンを強化する。
※2 最貧困層を対象に、家計管理、金融教育、零細ビジネス開業支援、市場活動支援などを提供。金融サービスの活用を支援すると共に、その効果を分析。

派遣から 始まる 未来



進学、非営利団体入職や
起業の道を選んだ先輩隊員

▶(公社)シャンティ
国際ボランティア会入職

石塚 咲さん Saki Ishizuka

マダガスカル/青少年活動/2009年度3次隊・神奈川県出身



現地の人々に寄り添いながら子どもたちの成長を支えたい

「カンボジアで行っている幼児教育事業で成果が出せるように、現地のさまざまな立場の人たちと一緒に取り組んでいます」

そう話すのは、石塚咲さん。現在、アジアを中心とした地域で、子どもに読書の機会を届けるといった教育支援を行うNGO、シャンティ国際ボランティア会の職員だ。カンボジアのバタンバン州で幼児教育の質を改善する事業をコーディネートしている。

石塚さんと国際協力、そして、カンボジアが最初につながったのは、大学4年の夏。入団していたガールスカウトの推薦で内閣府の国際青年育成交流事業に参加し、カンボジアに派遣された。現地の若者との交流をはじめ、日本のNGOの活動やJICAの事業など国際協力の現場を見る機会に恵まれた。「特に、現地の人々の暮らしを良くしようと、彼らと共に活動している海外協力隊員の姿が印象的でした」。

帰国して隊員募集を知り、新卒で応募、2010年1月、青少年活動隊員としてマダガスカルに派遣された。首都から約200km離れたベタフという町で、放課後にコミュニティセンターに集まる子どもたちに魅力的なアクティビティを提供することが要請内容だった。配属先は外国人ボランティアを受け入れるのが初めてだった。それまでは、施設をただ開けているだけのような状態であったが、石塚さんは同僚たちと話

し合いながら、活動内容を考え、保健衛生のワークショップや読み聞かせを一緒に行うようにしていった。石塚さんの任期終了後も同僚たちが活動を続けられるように曜日ごとのプログラム作りなどにも取り組んだ。

スキルが足りず軌道に乗せるまでの苦労は多かったものの、家族同様に迎えてくれた大家さん一家をはじめ多くの人に支えられ、慣れない任地での活動を終えることができた。現地の生活にどっぷりとつかった2年間が終わる頃には、帰国後も国際協力の仕事に携わりたいという気持ち強くしていた。一方で多くの隊員同様、国際協力とどのように関わりながらキャリアを築いていくか悩んだ。

「NGOをはじめ国際協力の世界では専門性はもちろん、社会人経験や即戦力が求められます。私は社会人経験がなかったため民間企業で働くことにし、少しでも世界と関われる仕事がないか進路相談カウンセラーに相談しました」

そして、フランス語圏アフリカへの国際輸送を行う企業に入り、ODAの機材運輸などに4年半携わった。その後、メーカーの物流部門へ転職してしばらくした頃、シャンティ国際ボランティア会の求人を知る。

「それが、大学4年生の夏に訪れたカンボジアで見た図書館活動をしていたNGOだと気づいて応募しました」



①マダガスカルで、活動先のコミュニティセンターに集まる子どもたちと石塚さん
②カンボジアのバタンバン州で、シャンティ国際ボランティア会の研修を受けた幼稚園の先生たちと石塚さん(前列右から2人目)
③子どもたちの教育のために働くバタンバン事務所の同僚と石塚さん(右から2人目)

18年5月に同会に転職、ラオス事業を東京からサポートする業務を担当した。インドネシアのスラウェシ島で地震・津波災害が発生したときは被災した女性の生計回復を現地で支援した。そして、19年10月からはカンボジアの事務所へ赴任し、チーフコーディネーターとして「幼児教育カリキュラムに基づく『遊びや環境を通じた学び』実践のための基盤構築事業」を担当している。小学校につながる「勉強」が中心に行われているカンボジア幼児教育において、子どもの年代に合わせて「遊びなどを通じた学び」を普及させるもので、教員教育の実施とそれを担う教育省の能力強化を行う、JICAの支援を受けている事業だ。「ガールスカウトや協力隊で行った活

動は、いわゆる『勉強』以外で生きる力を育むことやさまざまな体験から学ぶことを大切にすることを学んだ。今、関わっている幼児教育の事業でも、子どもたちが学校内外に関係なく、友達や地域の人と経験を共有したり新しい発見をしたりするなかで、人生を切り開いていく力を身につける機会やそのきっかけを提供することを大切にしていきたいと思っています」

現在、新型コロナウイルス感染症の影響で、日本から専門家を招いて行う研修は延期を余儀なくされているため、教員向けの現地語のガイドブック作りなどを進めている。

「教育支援の成果はすぐには見えないので長丁場になると思いますが、子どもたちのために頑張っていきたいです」

石塚さんの歩み

小学校3年生のとき、両親の勧めでガールスカウトに入団。現在もリーダー役として子どもたちの活動をサポートしている。



国際理解にも力を入れている団体で、文房具などをアフガニスタンの子どもたちに贈る活動をしたことで開発途上国に興味を持つようになりました。

2008年、大学4年の夏にガールスカウトの推薦で、国際青年育成交流事業でカンボジアに。



協力隊員の姿がとても印象的で、カンボジアにもまた行きたいと思いました。

2010年1月、新卒で協力隊としてマダガスカルへ。



小・中学校で図工や音楽、体育、日本語も教えました。派遣中の隊員たちで先輩隊員が作った「手洗いソング」による啓発活動も各地で行い、隊員活動の醍醐味を感じました。

帰国後、民間企業2社で国際輸送に携わる。



引き続き国際協力に関わりたかったのですが、知識も経験も不足していたため、就職しました。

2018年5月にシャンティ国際ボランティア会に転職。19年10月、カンボジアに赴任。



転職当初は、カンボジアで国際協力のフロントラインに立つことなど想像していませんでした。いろいろな経験があったからこそ、今につながっていると思っています。



ミャンマーの労働組合支援のために、国際労働組合総連合 (ITUC) と連携して全面的な支持と連帯を表明した (2021年3月8日)

待ってます、あなたを！
各界からのエール

From
日本労働組合総連合会
(連合)



「働くことを軸とする安心社会」を
共に実現していきましょう

働くことに最も重要な価値を置き、年齢や性別、国籍や障害の有無にかかわらず、多様性を認める公正な社会の実現を連合は目指しています。

職場で身分を残したまま協力隊の活動に参加できるよう働きかけを行うことも、その経験を日本社会に還元する意味で重要であると考え、連合はボランティア休暇制度など帰国後の復職を保証する枠組みづくりに取り組んできました。

労働条件の改善だけでなく、連合が支援する公益財団法人国際労働財団 (JILAF) では、インドやネパールで「児童労働撲滅のための学校プロジェクト」などを実施しており、協力隊員の皆さんと通じる活動も少なくありません。

また、連合でもマレーシア、シリア、チュニジアなどのOVが職員として活躍しています。現地の人たちと共に働かれた協力隊員の皆さんには、赴任された開発途上国の職場がどのような映りましたか。日本と異なる豊かさや幸せの価値観にあふれている国々で人生を見つめ直された方もいらっしゃるかもしれません。

今、日本の社会はジェンダー平等、外国人共生などの課題を抱えています。隊員の皆さんの経験を、連合が目指す「働くことを軸とする安心社会」の実現に役立てていただけることを期待しています。



日本労働組合総連合会 (連合) 副事務局長
山根木晴久さん

やまねきはるひさ ● 和歌山県出身。和歌山大学卒業後、東京海上 (現東京海上日動) 入社。損保労連を経て2004年より連合に出身。総合組織局長、総合運動推進局長を経て21年より現職。「わかやま応援団」団員として和歌山県の広報にも尽力。



写真左からお子さん、早矢加さん、大介さん。「キルギスには琵琶湖の約9倍の大きさの湖があり、まるで海のように。海と花畑のある南房総に初めて来たとき、キルギスみたいだと思いました」（早矢加さん）

キルギスの光景に似たオレンジ色の花畑から、カレンデュラの恵みを届けたい

房総半島の最南端に位置する千葉県南房総市。農業を営む五十嵐大介さんと妻の早矢加さんは、中央アジアのキルギスに家畜飼育隊員、村落開発普及員として赴任した。「キルギスの人々は温かく、『家において』とよく誘ってくれ、お茶やパンでもてなしてくれました」（大介さん）。

帰国後はそれぞれ再就職した大介さんと早矢加さんが、結婚を機に将来を考えたとき、キルギスの人たちが牛や羊の飼育などを通して、家族と一緒に支え合っていた暮らしに憧れて就農することに。2016年に南房総市に移住し、農産物の生産・加工を行う「ベレケの村」を開設した。

農地が小規模でも始めやすかったのがキルギスでよく見たカレンデュラ（キンセンカ）の栽培だった。カレンデュラ農家になるなら、日本一の産地である南房総市でという思いもあった。「日本では仏花として有名ですが、キルギスでは薬局にも花びらがあり、のどが痛いときはハーブティーでうがいをするなど、薬草とし

て親しまれていました」（早矢加さん）。

カレンデュラの花は12月から3月に最盛期を迎える。苗を育てる秋は台風シーズンに重なり、塩害で苗が一晩で枯れたことも。そのような苦労を経て、今ではハウスで苗作りをしている。育てた花は生花として出荷するほか、化粧品やハーブティーに加工。同時にキルギスから輸入したフェアトレードの羊毛フェルト雑貨の販売も行っている。「ベレケとはキルギス語で『恩恵・贈り物』のこと。私たちはキルギスで、自然の恵みに感謝し自然と共生する人々の姿に魅了され、それが心豊かな生活だと気づきました。そんな暮らしを体現し、皆さんにカレンデュラの恵みなどを届けられればと思います」（大介さん）。

19年の房総半島台風や近年のコロナ禍の影響で農業を辞める人から農地を任せられるようになった。「耕作放棄地を増やすよりは花畑を広げたいので、できる限り頑張りたいです」（早矢加さん）。



＼ うちのこだわり /

OB・OG ショップ

— 国内編 —



皮膚の修復・保湿効果があるといわれる
カレンデュラの花を漬け込んだ
「～CALEN かれん～ スキンケアオイル」

SHOP DATA

ベレケの村

経営者：五十嵐大介さん（キルギス／家畜飼育／2009年度3次隊・兵庫県出身）、五十嵐早矢加さん（キルギス／村落開発普及員／2010年度3次隊・奈良県出身）

ウェブショップ

<https://www.berekenomura.com>

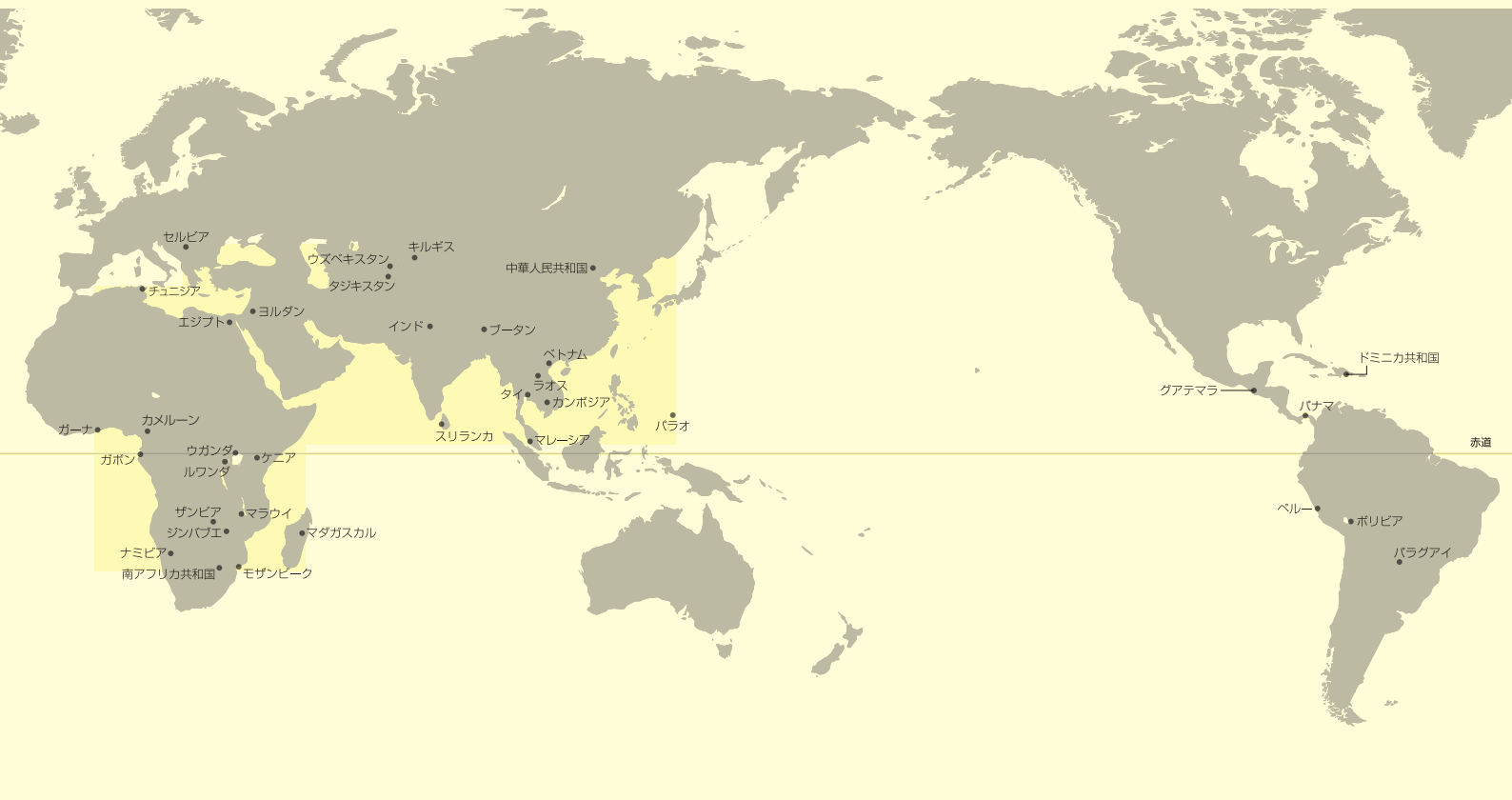


現在の派遣国数

36カ国

JICA 海外協力隊派遣現況

(2022年1月末現在)



(単位:人)

■ アフリカ地域

国名	一般	シニア
ウガンダ	23	
ガーナ	9	
ガボン	11	2
カメルーン	10	
ケニア	25	
ザンビア	1	
ジンバブエ	6	
ナミビア	7	
マダガスカル	12	
マラウイ	19	
南アフリカ共和国	3	
モザンビーク	5	
ルワンダ	20	

■ アジア地域

国名	一般	シニア
インド	1	
ウズベキスタン	3	
カンボジア	5	
キルギス	1	
スリランカ	3	
タイ	7	1
タジキスタン		1
中華人民共和国	1	
ブータン	3	2
ベトナム	16	
マレーシア	2	2
ラオス	16	4

■ 大洋州地域

国名	一般	シニア
パラオ	4	1

■ 欧州地域

国名	一般	シニア
セルビア	5	1

■ 中東地域

国名	一般	シニア
エジプト	11	
チュニジア	7	
ヨルダン	7	

■ 中南米地域

国名	一般	シニア	日系一般	日系シニア
グアテマラ	1			
ドミニカ共和国	5		5	
パナマ		1		
パラグアイ	6	1		
ペルー	1	1		
ボリビア	1			

■ 合計

	一般	シニア	日系一般	日系シニア	小計
派遣中 (男性/女性)	257 (113/144)	17 (9/8)	5 (1/4)	0	279 (123/156)
累計 (男性/女性)	46,036 (24,416/21,620)	6,570 (5,307/1,263)	1,546 (597/949)	547 (252/295)	54,699 (30,572/24,127)

一般 = 青年海外協力隊/海外協力隊

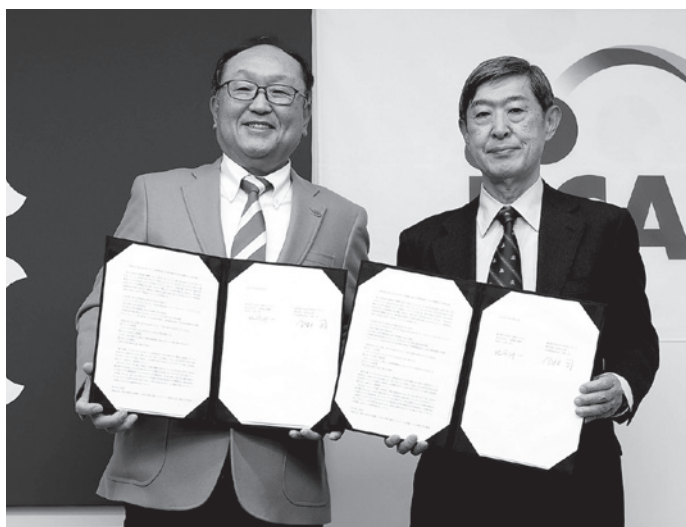
シニア = シニア海外協力隊

日系一般 = 日系社会青年海外協力隊/日系社会海外協力隊

日系シニア = 日系社会シニア海外協力隊

INFORMATION

JICA青年海外協力隊事務局からのお知らせ



署名式の様子

NEWS

JICAと読売巨人軍がスポーツ振興を通じた国際貢献のための新しい連携協定を締結

JICAと株式会社読売巨人軍（以下、読売巨人軍）は2022年1月12日、開発途上国におけるスポーツ振興を通じた国際貢献を目的に、連携協定に署名しました。15年1月に連携協定を締結して以降、これまでJICA海外協力隊の野球隊員が、派遣前にジャイアンツアカデミー（読売巨人軍の野球教室）で行われている指導法を学んだり、また同アカデミーのコーチを途上国に派遣するなど協力してきました。これに加え、今後はスポーツを通じた多様性のある社会、平和な社会の実現への貢献を目指した活動として、女子選手の指導や野球教室を通じた社会啓発活動などを連携して行う予定です。詳細はこちらをご覧ください。

https://www.jica.go.jp/press/2021/20220113_30.html



NEWS

JICA海外協力隊 グローカルプログラム(派遣前型)が開始

本年度より新設した「JICA海外協力隊グローバルプログラム(派遣前型)」がスタートしました。派遣前訓練の一環として、自治体などが行う地方創生や地域活性化に向けた取り組みへの参加機会を隊員候補者に提供し、開発途上国が抱える同様の課題への対応力を育てると共に、帰国後に日本の地域課題の解決に貢献できる人材を育成することを目的としています。第1陣となる2022年度1次隊(8名)向けのプログラムが、1月10日(月)より全国5自治体(岩手県釜石市・陸前高田市、島根県海士町、熊本県球磨地区・芦北町)で開始。今後、協力隊合格者のうち希望する方に対して、訓練所入所前の約3カ月間に、本プログラムを実施していく予定です。

https://www.jica.go.jp/volunteer/glocal_program



NEWS

「世界の笑顔のために」プログラム 2021年度秋募集の結果について

「世界の笑顔のために」プログラムは、開発途上国で必要とされているスポーツ、日本文化、教育、福祉などの関連物品を日本の皆さまからご提供いただき、JICA海外協力隊や在外事務所を通じて、現地の人々へ届けるプログラムです。2021年10月4日～31日に「2021年度秋募集「世界の笑顔のために」プログラム」を行い、ガーナなどへの野球ボール1506個、パプアニューギニアへの車椅子7台など、合計15カ国に対して64種・約4200点の寄贈をいただきました。コロナ禍により現地への輸送が予定より遅れていましたが、22年1月末より各国への輸送を順次開始いたしました。22年度春募集は5月以降に予定しています。参加方法の詳細は下記をご覧ください。

<https://www.jica.go.jp/partner/smile>



クロスロード [2022年3月号]

第58巻第2号 通巻674号
発行日 2022(令和4)年3月1日

編集・発行: 独立行政法人国際協力機構
青年海外協力隊事務局
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-4-1竹橋合同ビル

制作協力: 一般社団法人協力隊を育てる会『クロスロード』編集室
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-28-7昇龍館ビル2階
ロゴタイプデザイン・誌面デザイン: (株)AND
印刷・製本: 弘報印刷(株) 校正: 佐藤智也

『クロスロード』(通常号)は、
JICA海外協力隊のウェブサイト
でも公開しています。



本誌へのご意見・ご感想をお聞かせください。
アイデアも大募集中です。

今月号の『クロスロード』はいかがでしたか。ぜひご意見やご感想を編集室のメールにお寄せください。「こんな記事があれば活動先で役立つのに」「こんな記事なら読みたい」といったご要望やアイデアも随時募集しています。

『クロスロード』編集室
crossroads@sojocv.or.jp



編集後記

JICA事務局: 特集の活動言語を身につけるためのノウハウは参考になったのではないのでしょうか。訓練所ではもちろんですが、派遣国でも現地語習得に向けて学習は続くと思いますので、今回のいろいろなアドバイスをぜひ試してみてください。(協田雄気)

クロスロード編集室: 駒ヶ根訓練所・ブライアン先生のかつての日本語習得法はストイック。毎日約30ページの読書、辞書を写し、就寝前に奥様の前で1ページを音読。翌朝それを読み上げての繰り返し。テキストを購入しては三日坊主で諦める自分を猛省しました。(千川美奈子)



モリンガの緑が鮮やか！
「三色団子」

水がなくてもできる
「トマトシチュー」



地域の小学校の子どもたちがダンスを見せてくれたお礼に、手製のみたらし団子を。行列ができた



初めての磯辺団子を面白そうに口にする女性たち。最初はのりを恐る恐る食べていた。しょうゆの作り方を聞かれて困った



マラウイで作った、かき揚げととり天。近所の女性たちにうどんの作り方を教えたときに一緒に作って好評だった



やすどみ あい
安富 藍さん

マラウイ/栄養士/2017年度2次隊・徳島県出身
大学卒業後、管理栄養士として病院や特別養護老人ホームに6年間勤務。2017年に協力隊に参加しマラウイに派遣、配属先病院の食事調査のほか、地域への栄養教育やモデル献立作成などを行う。帰国後、保育園勤務を経て、現在病院に勤務しながら青森県立保健大学大学院に通っている。

隊員めし

現地で作った日本食、
日本で作る現地めし

マラウイ

現地で作った 日本食

「三色団子」

私がマラウイにいた頃は、首都のスーパーに白玉粉はありませんでしたが、白玉粉と同じ原材料の「もち米粉」があることに気づき、団子を作ようになりました。抹茶の代わりにマラウイでも採れるモリンガを使っています。砂糖を入れないで白い団子も作っておくと、みたらしのタレ（しょうゆ、みりん、砂糖、水、片栗粉を加熱して作る）にからめて「みたらし団子」にしたり、しょうゆを塗って焼いて、のりで巻いて「磯辺団子」にしたりと、アレンジも楽しめます。

●材料（10本分）

もち米粉……………200g	食紅……………微量
砂糖……………大さじ3	モリンガ粉……………小さじ1弱
ぬるま湯……………120gくらい	

●レシピ

- ①砂糖をぬるま湯に溶かし、もち米粉に加えてこねる
- ②①を3等分にし、1つにモリンガ粉を加え生地が均等に緑色になるようにこねる
- ③①を3等分した1つに食紅を加え、ほんのりピンク色になるまでこねる
- ④お湯を沸かす
- ⑤すべての団子の生地を1つ10gくらいのサイズに丸める（生地が乾きそうなら、ラップや布巾をかけておく）
- ⑥沸騰したお湯に⑤を入れてゆで、浮いてきて1〜2分たったら冷たい水（あれば氷水）にあげる
- ⑦水を切り、緑→白→赤の順に竹串に刺す

<安富さんからのアドバイス>

- ①で団子は最終的に竹串に刺すため、少し硬めの生地になるように水分量を調節してください。
- ②と③でモリンガ粉や食紅（粉の場合）を生地と混ぜる際には、粉をボウルに広げて生地と混ぜていくと混ぜやすいですが、パサついて混ざらない場合、少量の水で溶いて混ぜてください。共に入れ過ぎると色が濃くなり過ぎるので、注意してください。
- ⑦出来上がった団子はラップをしたり容器に入れたりしておくことで軟らかさを保てます。

<編集室で再現した感想>

難易度 ★☆☆☆☆
達成感 ★★★★★

簡単にできて、色とりどりで見栄えも良く、常温でいいので、周囲に振る舞うメニューとしても良いと思いました。もちもちした食感に米と砂糖の素朴な味なので、日本食に親しみのない方でも食べやすいのではないのでしょうか。

日本で作る 現地めし

「トマトシチュー」

マラウイの家の警備員の方に作り方を聞き、よく食べたメニューです。水を使わずにトマトの水分で作れるため、水が貴重な地域でもお勧めです。マラウイではインゲン豆や乾燥した小魚、ゆでたオクラを入れることが多かったのですが、鶏肉や牛肉を入れると日本人にも食べやすい味になります。現地で鶏のさばき方を学んだ隊員も多いかもしれないと思い、今回は鶏肉を使用しました。

●材料（2人前）

トマト……………3個
玉ねぎ……………小1個
鶏肉（むね肉でもも肉でも可）1/2枚
※牛肉のほか、ゆでたインゲン豆や大豆などの缶詰を入れてもいい
サラダ油……………大さじ2
塩……………小さじ1/4くらい（好みの量）

●レシピ

- ①トマトを1〜1.5cmくらいのダイスカットにする
- ②玉ねぎを半分に切ったものを横に3等分し、5mmくらいの幅のスライスにする（2〜3cmの長さ）
- ③鶏肉は食べやすい大きさに切る
- ④鍋に油を熱し、トマトを入れる（トマトから水分が出る）
- ⑤玉ねぎや鶏肉を加えて20分ほど煮込む（ゆでた豆は適当なタイミングで加える）
- ⑥塩で味を調える

<安富さんからのアドバイス>

- ⑤でよく煮込むほどトマトの酸味が抜けてうま味が出ます。煮込んでいる最中に水分がなくなってしまうようなら、トマトを足したり、お好みで水を加えてください。
- ④⑥で油や塩を多く使ったほうがおいしいですが、油でカロリーが高くなり、塩を取り過ぎると高血圧のリスクが上がるので注意してください。

<編集室で再現した感想>

難易度 ★☆☆☆☆
達成感 ★★★★★

味付けは塩のみなのに、煮込むことでトマトと玉ねぎの甘味が出て、ご飯にもイモ類にもパスタにもバンにも合う万能メニューだと思いました。作り置きして冷凍しておいてもよさそうです。



シリア

手仕事による収入で、今まで我慢してきたものが買えるようになったという女性もいる。「わずかなおしゃれができる余裕や安心感は、普通の生活を取り戻し尊厳を保つことにつながります。大きなプラスになるかはわかりませんが、元の生活状態に近づくと一助になればと思います」

生活基盤を失ってしまったシリアの女性たちに「針と糸」で収入の道をひらく

長らくシリア内戦で生活基盤を失った女性たちの自活を支援するプロジェクト「イブラ・ワ・ハイト」は2013年5月、考古学者の山崎やよいさんが発起人となって立ち上げられた。1989年より在住して現地で家庭を持ち、シニア海外ボランティアとして博物館活動に関わったシリアは、山崎さんにとって第二の祖国ともいえる。プロジェクト開始のきっかけは、2011年の内戦勃発から1年半ほどたったころ、シリア人の友人から「各国からの支援に頼るだけでなく、私たちが自活していきたい」と相談されたことだった。そこで注目したのが伝統的なシリア刺しゅう。古代の神話や伝承をモチーフとした素朴な手工芸には独自の魅力があった。

「イブラ・ワ・ハイト」とはアラビア語で「針と糸」の意味で、針と糸があれば避難先でもできる手工芸での自活を目指す。メンバーはシリア国内と周辺のトルコ、ヨルダン、エジプトなどに避難中の10代～50代の女性たち20名。稼ぎ頭である夫を失ったり、ま

た夫がいても同じ仕事に就けず、生活に困難を抱えたりと、収入源に苦勞している。

各地のコーディネーターが材料を持ってリーダーの家に行き、リーダーが取りまとめた作品を受け取り日本に発送する流れで、デザインは個人の独創性に任せている。以前は年に6回程度のペースで発注していたが、コロナ禍のため半減。この2年はイベントなどでの対面販売も激減した。「対面販売は、シリアの状況を伝えることができ、商品の背景を理解してもらえる良い機会でした」。しかし20年に状況を打開すべく開設したネットショップにより、北海道や九州など、東京から遠い地方の人々にも商品を届けることができるようになり、趣旨を理解してもらえる人の輪が広がった。「寄付を申し出てくださる方もいますが、お金をもらうより商品を買っていただくことで現地に発注をしたいのです。仕事が回ることでより良いものを目指す意欲が湧き、女性たちの技術も暮らしも向上していくと思っています」。



＼ うちのこだわり /

OB・OG ショップ

— 海外編 —



刺しゅうを手にしたシリア人女性。小さな作品はアクセサリやドールなどに加工する

SHOP DATA

イブラ・ワ・ハイト

経営者：山崎やよいさん
(SV/シリア/文化/2002年度0次隊、
SV/シリア/考古学/
2009年度2次隊・京都府出身)
ウェブショップ <https://ibrawkhait.thebase.in>



Text = 村重真紀 Photo (上) = 桜木奈央子 写真提供 = イブラ・ワ・ハイト



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

